

# Arcserve UDP 10

## 製品のご紹介

arcserve Japan 合同会社

2025年4月

Rev.1.2

# 目次

---

- 1. Arcserve UDP の概要とフォーカスエリア**
- 2. 様々なクラウド利用のニーズへの対応**
- 3. セキュリティの確保 & ランサムウェアへの対策**
- 4. ライセンス**

# 1. Arcserve UDP の概要と フォーカスエリア

# Arcserve Unified Data Protection (UDP)

イメージバックアップをベースにArcserve シリーズ  
を統合したバックアップソリューション

## Arcserve UDP

### 統合バックアップソリューション

#### Arcserve Backup

データ保護の大黒柱  
頼れるバックアップ

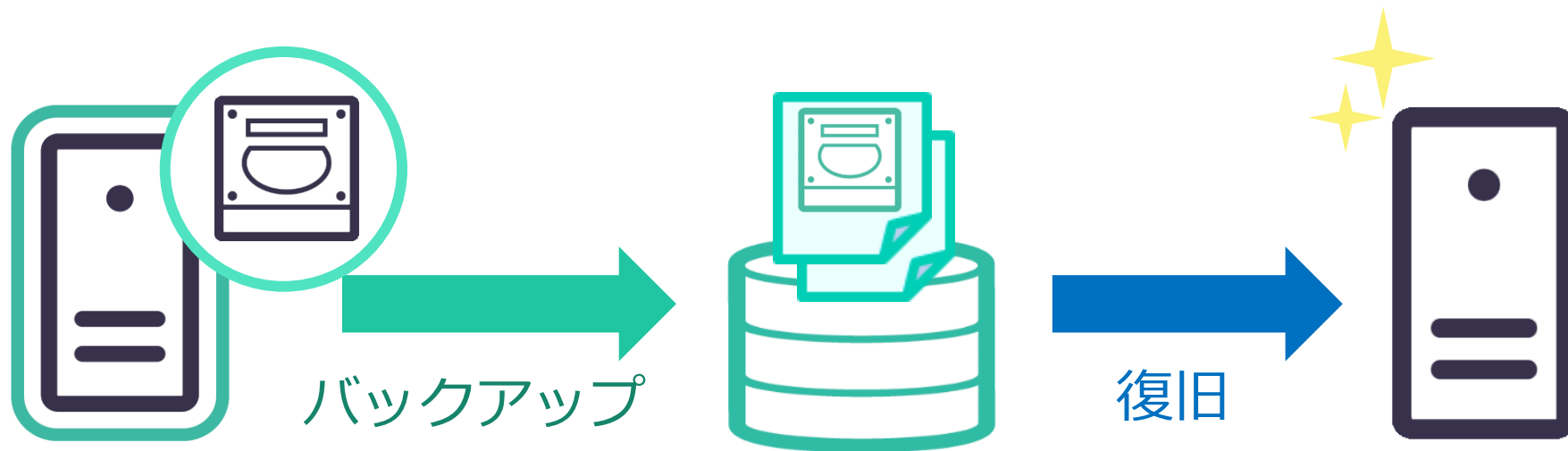
#### Arcserve Replication/HA

レプリケーションの  
デファクトスタンダード

## 簡単イメージバックアップ

### イメージバックアップとは

ファイル単位ではなく、ディスク全体を丸ごと高速にバックアップします。  
OSやデータを含むシステム全体をまとめて簡単に復旧できます。  
個別のファイル単位での復旧も可能です。



Arcserve UDPは異なる機種への復旧やP2Vも標準サポート！  
(物理から仮想への復旧)

# Arcserve UDP : 高い顧客満足度！



ITreview

★★★★★

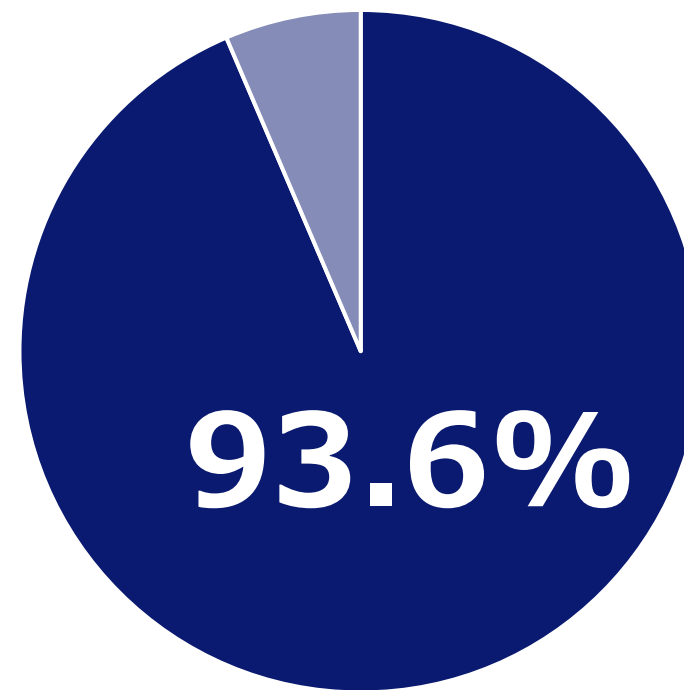
どのような課題解決に貢献しましたか？どのようなメリットが得られましたか？

永久増分バックアップと重複排除機能にてバックアップの時間を以前に比べ半分以下に短縮できた  
またデータ容量も半分程度に削減できたため、H/Wコストも削減できた  
システム移行の際はバックアップデータからBMRにて移行できるため簡単で一貫した手順で移行が行えた

業種 ソフトウェア・SI      職種 ITアーキテクト      従業員規模 100-300人未満

提供元：アイティクラウド株式会社

## Arcserve テクニカル サポート満足度



お問合せ終了後のアンケートで、4以上の評価（5段階評価）をいただいた割合 - 2023年

# Arcserve UDP のフォーカス エリア



# Arcserve UDP のフォーカス エリア

**簡単**

**簡単！でも柔軟にバックアップ**

簡単なだけでなく、小規模・大規模、物理・仮想・クラウド、Windows・Linux を問わず、柔軟なバックアップやリストアを実現

**仮想**

**仮想化基盤やクラウドに関わる要件をまとめて対応**

大規模な仮想化統合基盤やクラウドサービス、仮想基盤に統合できない物理サーバの保護、などもまとめて解決！

**災対**

**災害やサイバー攻撃への対策を適切なコストで実現**

ストレージやネットワークを効率的に利用し、全体コストを抑えてシステムの災害対策を実現



# 手間いらずのバックアップ運用 (継続的な増分バックアップ)

初回のフルバックアップ以降は増分バックアップだけで運用

バックアップデータを3世代保存する場合



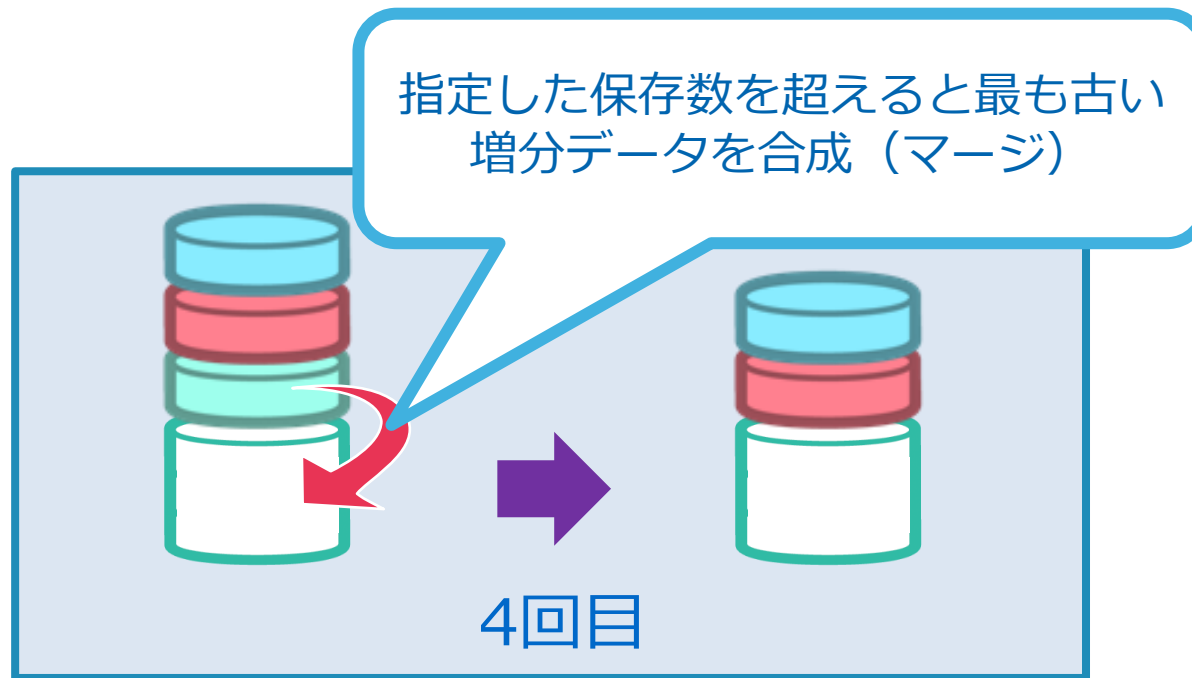
初回



2回目



3回目

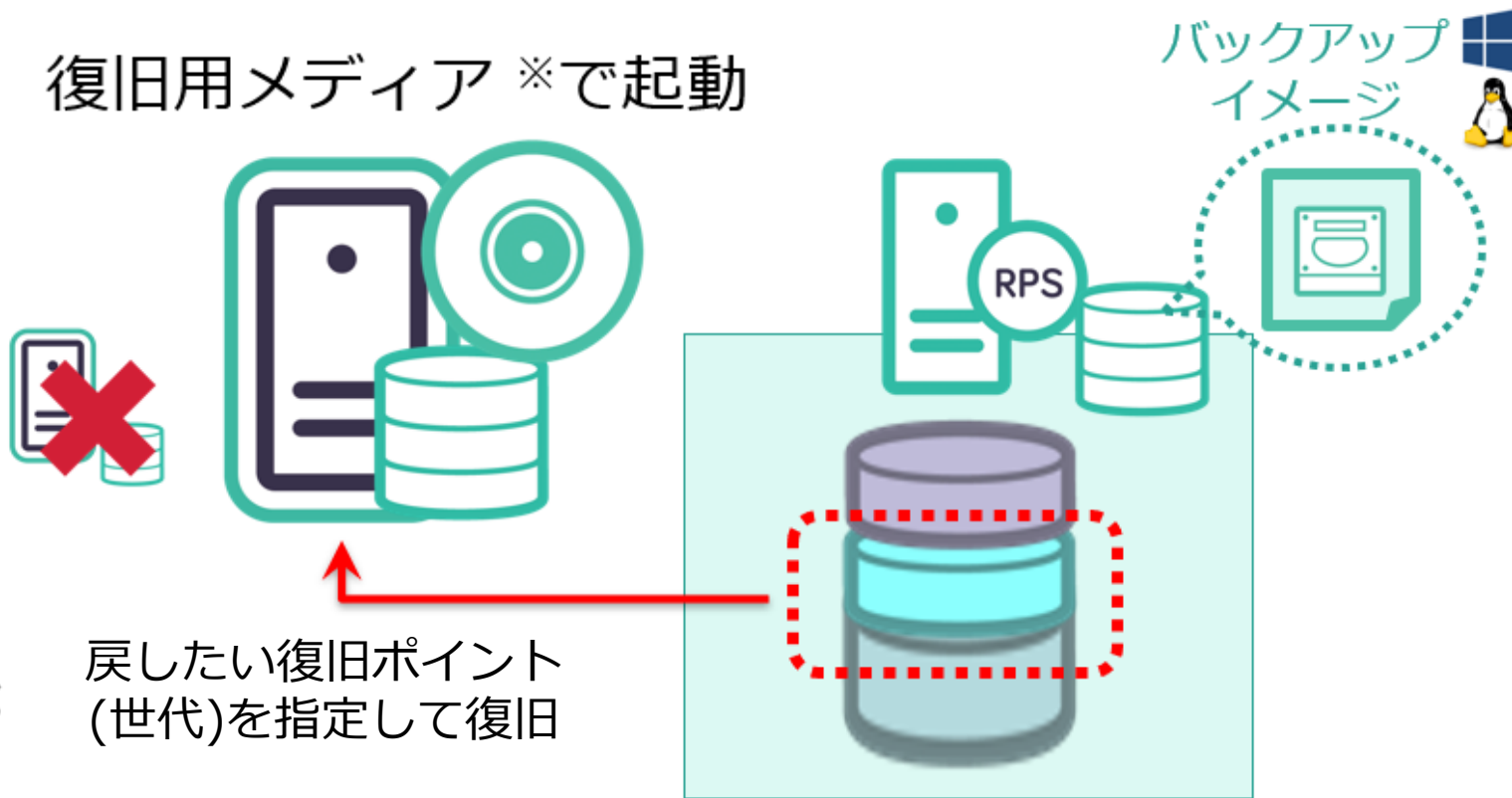


※初期設定では7世代を保存(最大1440世代まで設定可)

2回目以降フルバックアップの取り直しが不要なため、  
**バックアップ時間短縮とディスク使用量の節約が可能!!**

# イメージデータを丸ごと戻すだけの簡単復旧

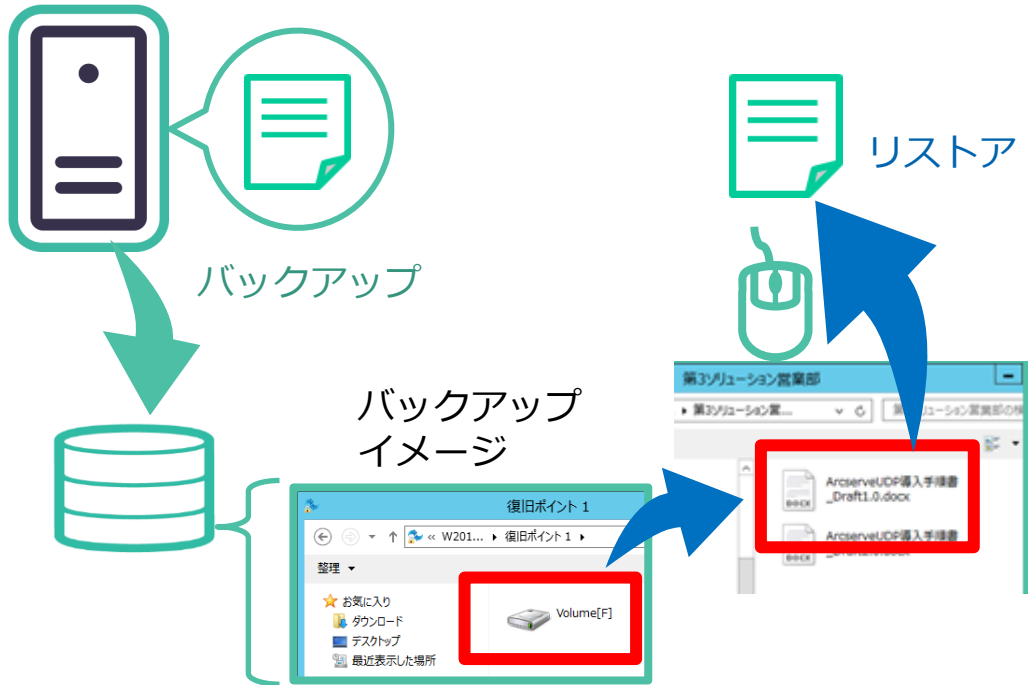
OSやアプリケーションを再インストールする必要なく、  
**丸ごと戻すだけでシステム復旧**



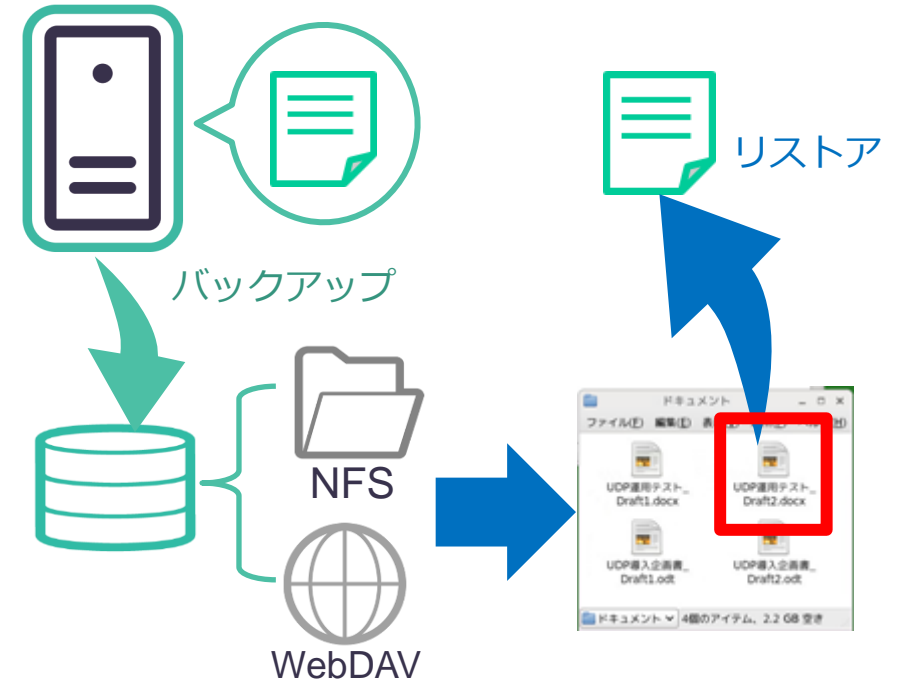
※ドライバの組み込みやネットワーク設定なども復旧作業中に実施可能

# ドラッグ & ドロップによる簡単ファイルリストア

## Windows 環境



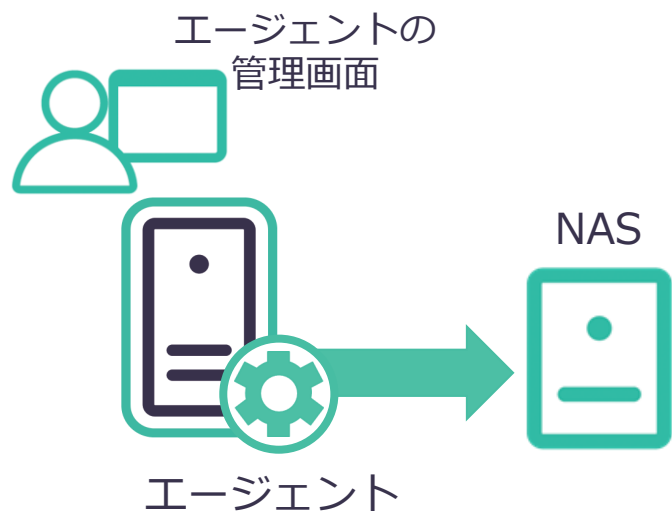
## Linux 環境



Windows も Linux も、簡単操作によるファイル リストアを実現

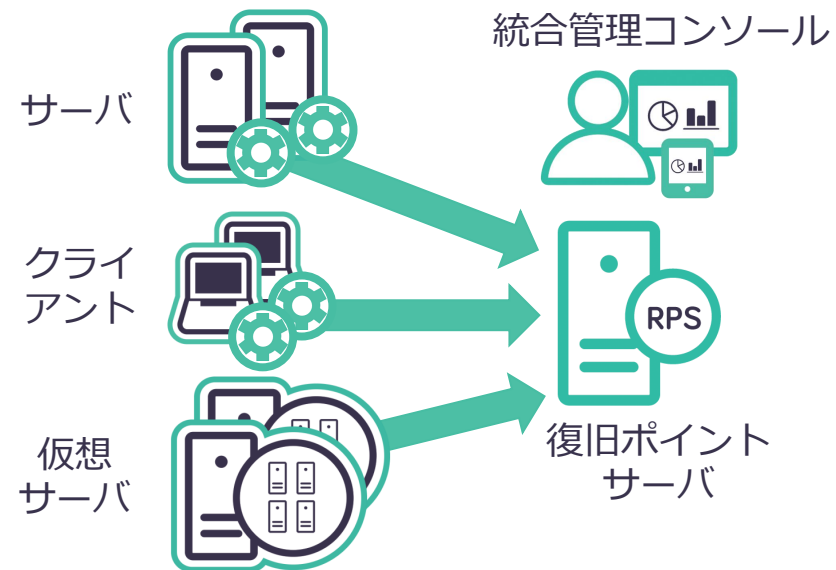
# 複数サーバ環境でも簡単なバックアップ運用を実現

## 単体サーバのバックアップ



エージェントだけでバックアップ運用

## 複数サーバのバックアップ



複数の対象を一元管理で、まとめてバックアップ運用

システム構成の変更に合わせて**拡張可能！！**

# 統合管理を実現する Arcserve UDP のコンポーネント

## Arcserve Unified Data Protection

### エージェント

物理・仮想マシンの  
バックアップを実行



### コンソール (統合管理サーバ)

スケジュール管理  
および操作画面を提供



### 復旧ポイント サーバ ※

バックアップデータの  
格納庫を提供



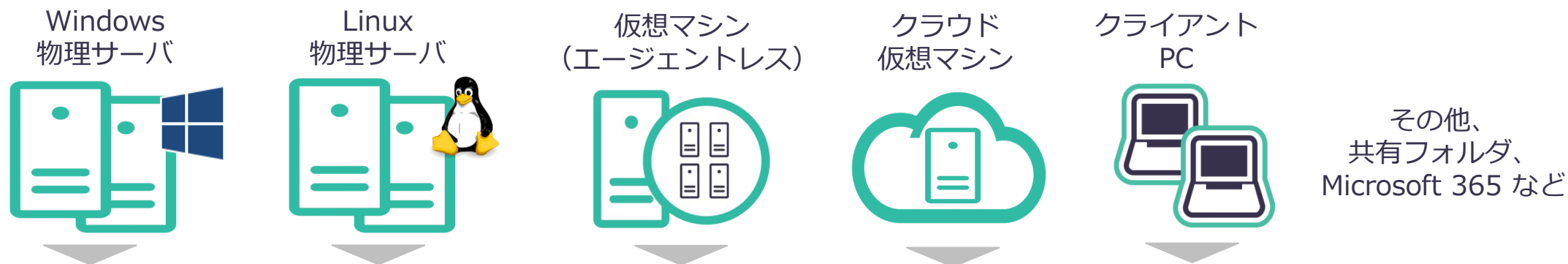
環境に合わせて構成変更が可能

※ 復旧ポイントサーバ  
(Recovery Point Server : RPS)

# 混在環境を一括で統合管理 (Arcserve UDP コンソール)

こんな時に  
便利!

- ➔ Windows / Linux をまとめてバックアップしたい
- ➔ 物理や仮想環境、クラウドのバックアップをまとめて管理したい



arcserve UNIFIED DATA PROTECTION

メッセージ (1) administrator ヘルプ

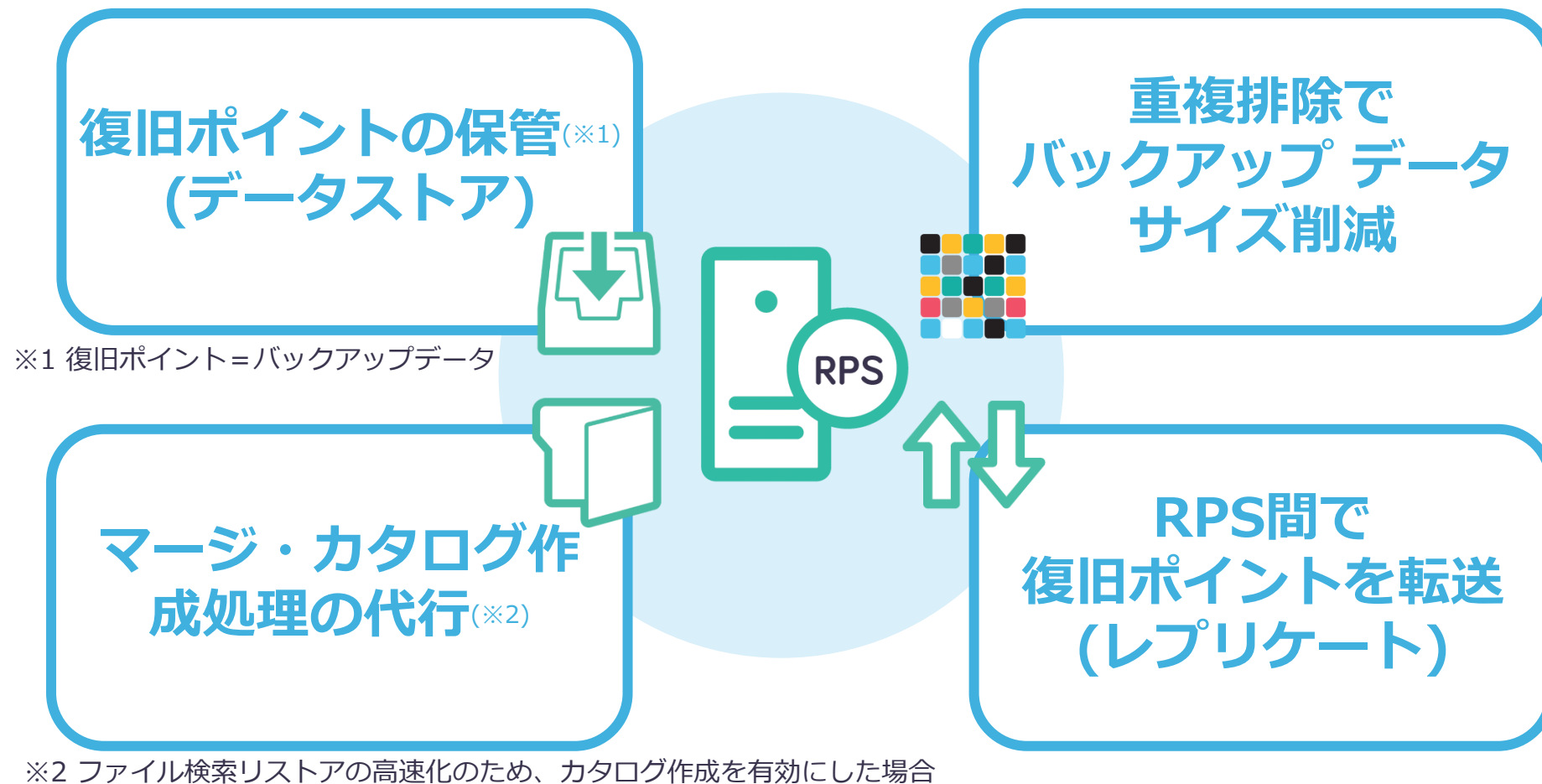
ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定 | ハイアベイリリティ

ノード: すべてのノード 1058.174.217

ノード	ステータス	ノード名	VM名	プラン
すべてのノード				
プランのないノード				
Linuxノード				
▶ プラングループ				
▶ Linuxバックアップ サーバグループ				
▶ Nutanix AHVグループ				
▶ UNO または NFS バス				
▼ 仮想スタンプ				
すべてのノード				
要アクション				
スタンバイ VM 実行中				
ソース実行中				

インターネットブラウザを使って  
どこからでも簡単にアクセス可能

# バックアップデータを効率よく管理（復旧ポイントサーバ）

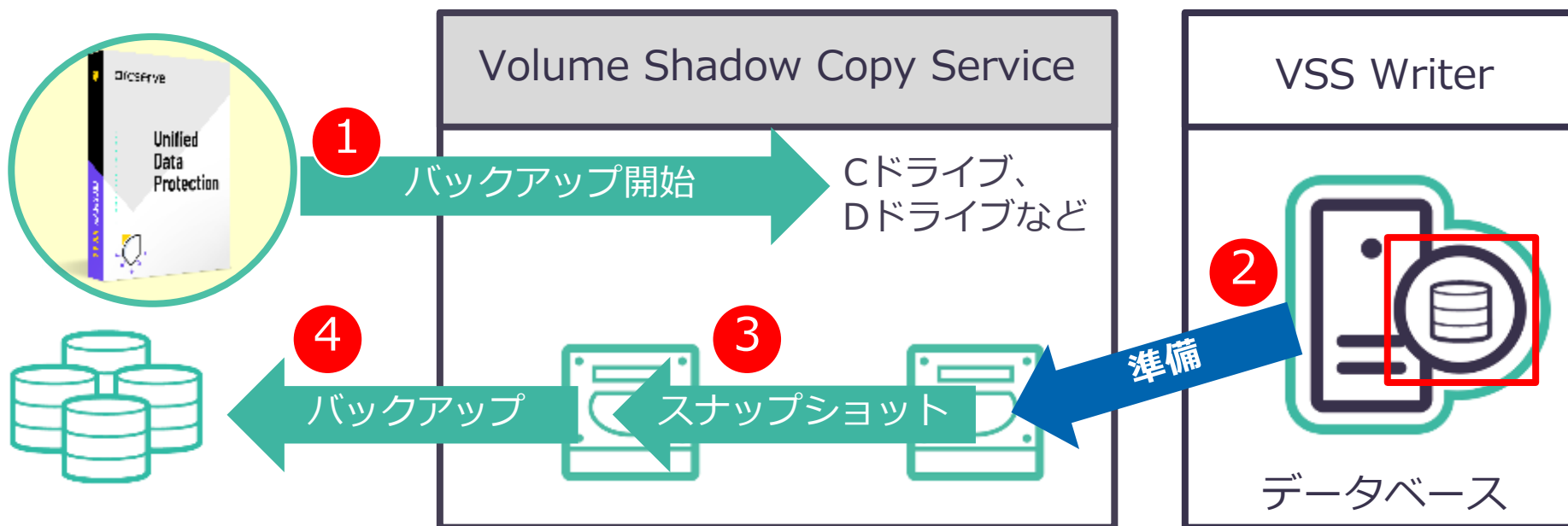


バックアップ サイズの低減と災害対策を実現する高機能なデータ格納庫を提供

## 稼働中のアプリケーションも簡単にバックアップ

アプリケーションの VSS Writer と連携。サーバ丸ごとバックアップで簡単！

- Microsoft SQL / Exchange / SharePoint、Oracle Database (Windows)、Active Directory





# Oracle データベースの詳細バックアップ/リカバリ

Oracle Recovery Manager (RMAN) と連携し、Windows / Linux 上の Oracle データベース を バックアップ/ リストア・リカバリ



エージェントレスで  
データベースを保護

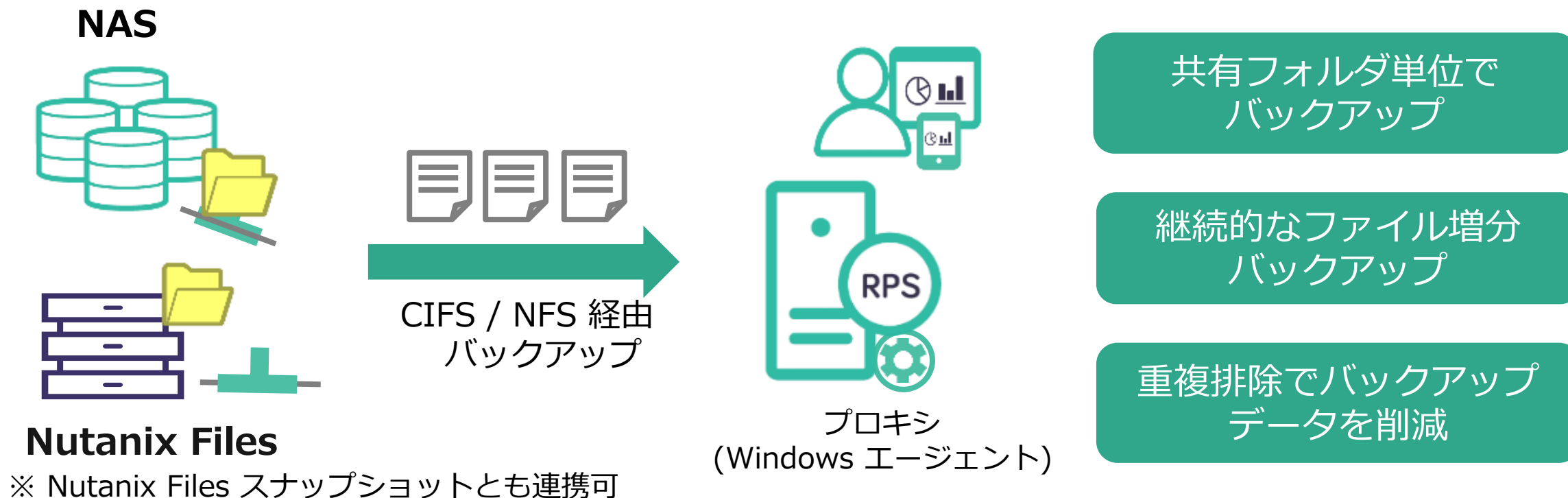
アーカイブログだけの  
バックアップや削除が可能

バックアップ時以外の  
特定時点へリカバリが可能

※ 日本では Oracle RAC 環境は非サポート、但し Arcserve Backup で RAC 環境をサポート

## 共有フォルダ (CIFS/NFS) もまとめてバックアップ

エージェントが導入できない NAS やストレージ上のデータをバックアップ



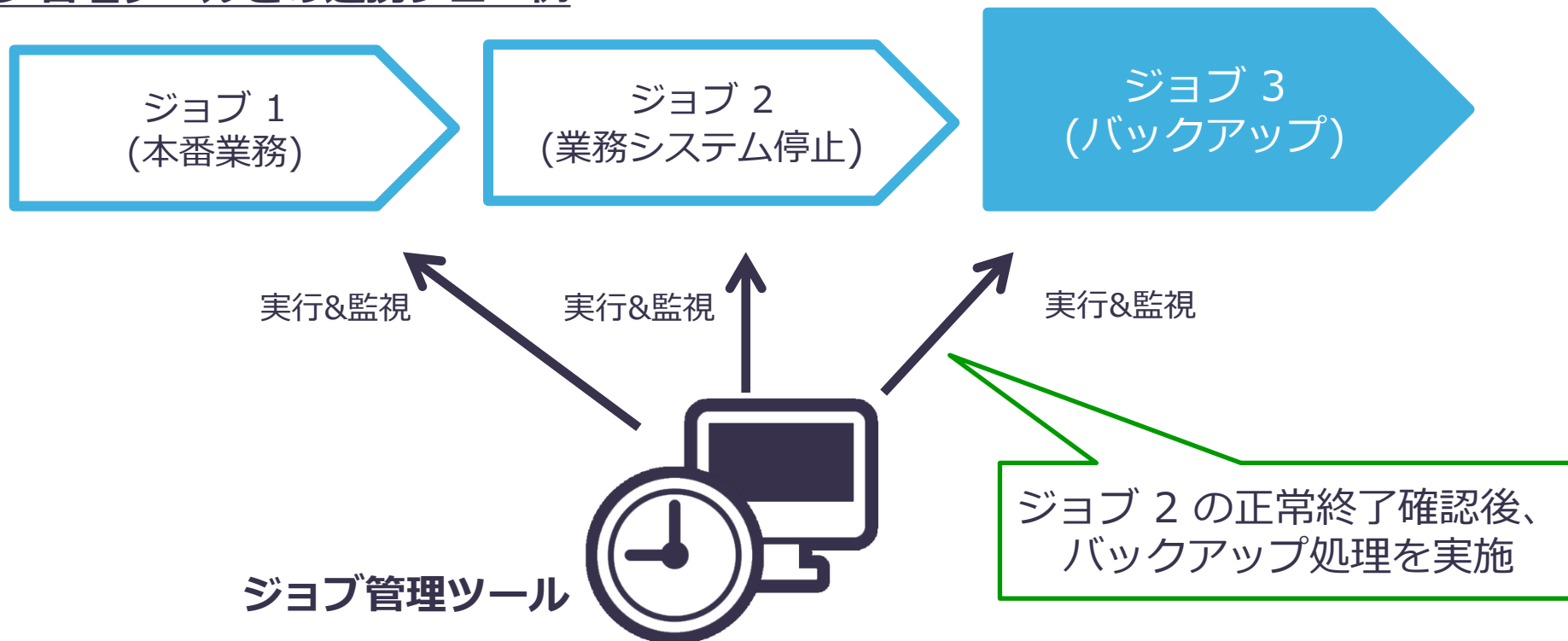
大容量の NAS データも最小化して保存！

# コマンドライン インターフェースでジョブ管理ツールと連携

こんな時に  
便利！

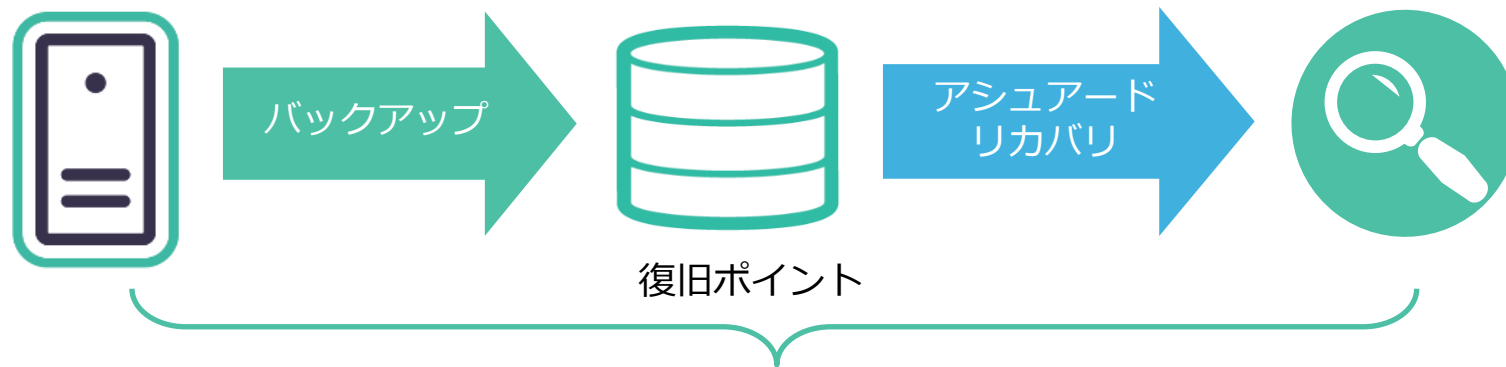
- バックアップ/リストアをスケジュール以外で自動実行したい場合
- ジョブ管理ツールと連携して運用を楽しみたい場合

## ジョブ管理ツールとの連携フロー例



# バックアップ データ の健全性を自動確認 (アシュアード リカバリ)

バックアップ データがリストア可能であることを手間をかけずに自動で確認



バックアップから確認処理の後始末までを全自動化

バックアップとレプリケート  
後のデータを確認

曜日・時間の指定か、  
手動で実行

確認結果を  
メールで通知

※ Arcserve UDP 9.0 からは標準機能として Advanced Edition で利用可

# アシュアード リカバリ : 復旧ポイントを確認する2つの方法

## インスタントVM方式



インスタントVM

本番ネットワーク  
とは分断して起動できる！  
確認用ディスク スペース  
は不要！

### [確認できるポイント]

- システムが起動可能か？
- サービス実行が可能か？
- アプリケーション サービスの整合性は取れているか？  
(カスタムスクリプトを利用)

### [利用条件]

- インスタントVMの実行条件を満たす物理/仮想OSを含むバックアップ
- インスタントVMの仮想基盤は vSphere / Hyper-V / AHV (Linux VM のみ)

## インスタント仮想ディスク方式



インスタント仮想ディスク

仮想環境不要！  
確認用ディスク  
スペースも不要！

### [確認できるポイント]

- ファイル システムの整合性が取れているか？
- ディスクに破損はないか？
  - ✓ chkdsk による確認も可能
- 特定ファイルの読み出しが可能か？  
(カスタムスクリプトを利用)

### [利用条件]

- Windows のデータ ボリューム、共有フォルダ、Microsoft 365、Oracle RMAN のバックアップ



## その他の機能

### リソース構成ウィザードによる初期設定の簡略化

物理サーバや仮想マシンなど複数のバックアップ対象の登録やバックアップ先など必要な設定をウィザード形式で順に設定するだけで、初心者でも簡単に設定可能！

### 柔軟なバックアップスケジュール設定

- 指定した曜日や日次/週次/月次のバックアップスケジュールが設定可能
- 週次や月次、曜日指定のスケジュールを組み合わせた柔軟なスケジュール設定が可能

### Active Directory のオブジェクトレベルリストア

- 誤って消してしまったActive Directoryのユーザやコンピュータ アカウントなどを個別のオブジェクト単位でリストア可能
- オンラインで Active Directory オブジェクトのリストアが可能。業務への影響を最小化

### Linux 環境でも簡単 GUI 操作

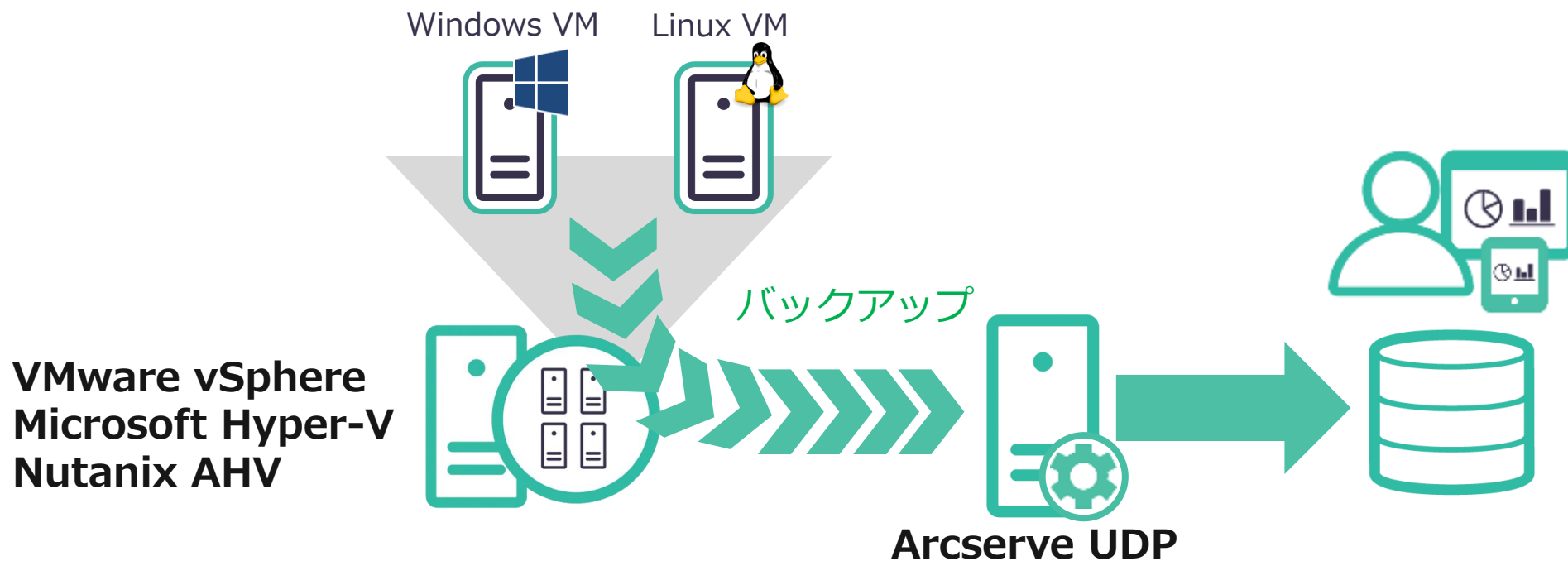
Linux 環境でも Web ブラウザの GUI からマウスを使った直感的な操作が可能

# Arcserve UDP のフォーカス エリア



# 仮想マシンに負担をかけないエージェントレス バックアップ

VMware vSphere、Microsoft Hyper-V、Nutanix AHV ※ の  
仮想マシンを エージェントレス でバックアップ



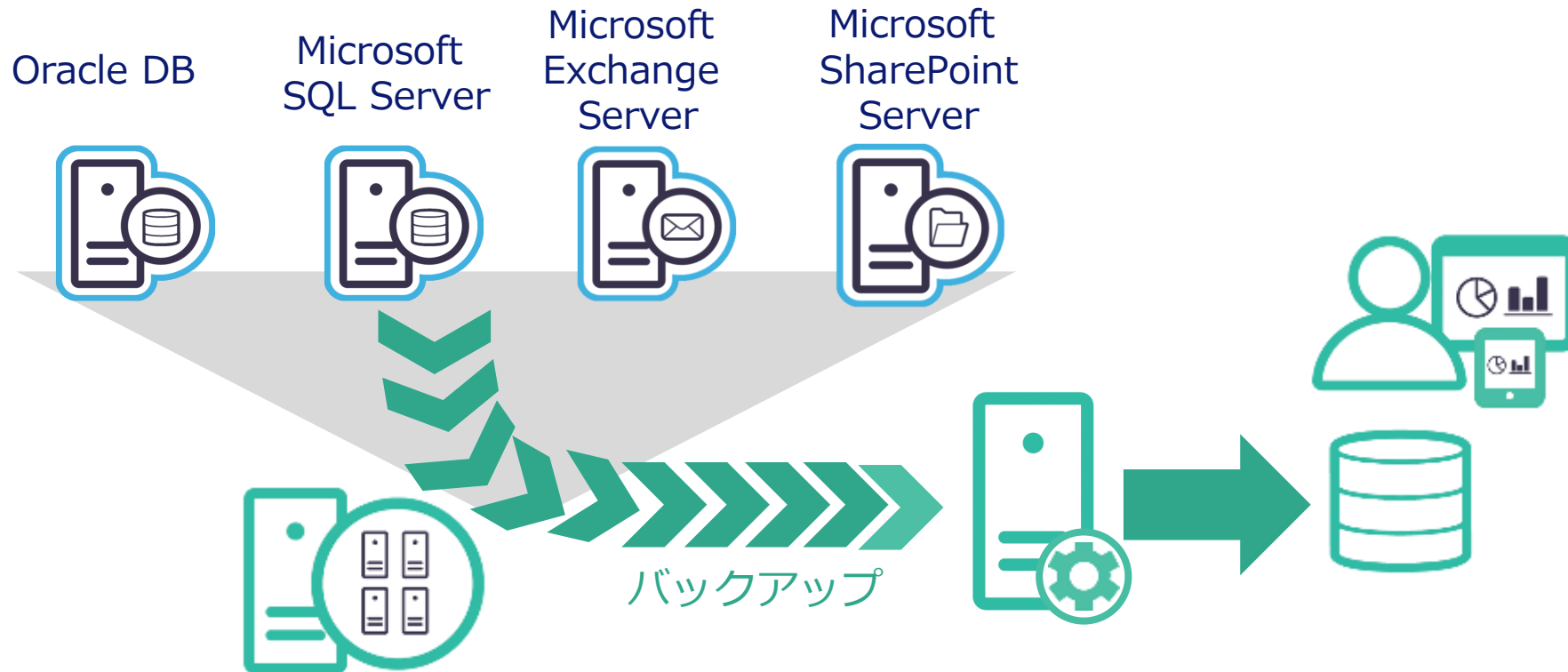
**継続増分 & 重複排除バックアップ運用も可能！**

※ AHV 環境のエージェントレス バックアップは、Advanced Edition for Nutanix に対応



# 仮想マシン内のアプリケーションもオンライン バックアップ

エージェントレス でも、稼働中の Microsoft SQL / Exchange Server / Share Point Server / Oracle DB を無停止でバックアップできる



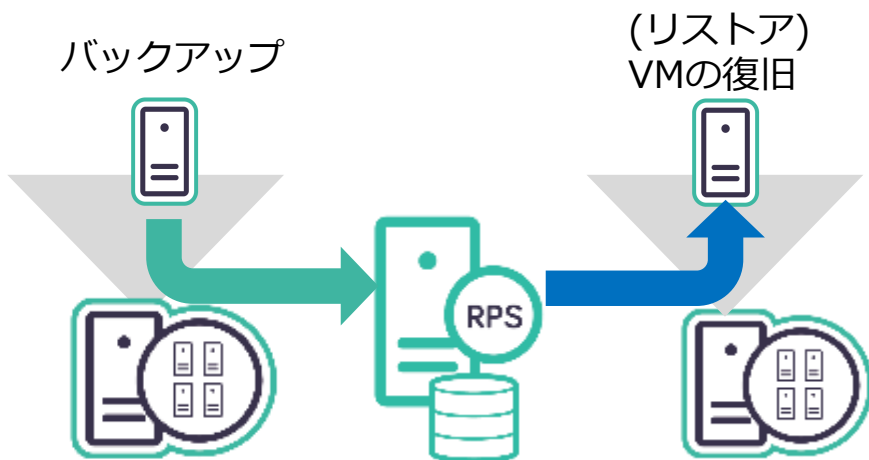
※ VMware Tools、Hyper-V 統合サービス、Nutanix Guest Tools の仮想マシンへの導入が必要

## 仮想マシン単位、ファイル単位で簡単復旧

仮想マシン全体の復旧はもちろん、個別ファイル単位でのリストアも可能

### 仮想マシン (VM) の復旧

別の仮想ホストやバージョンが異なる  
同一のハイパーバイザへの復旧も可能



### ファイルレベル リストア

エージェントレス バックアップからでも  
ファイル単位でリストア





# エージェントレス バックアップ でもここまでできる！

## 停止中の仮想マシンのバックアップおよびファイル単位のリストア

- Windows 仮想マシンが停止中に取得したバックアップデータからファイル単位のリストアが可能
- VMware vSphere および Microsoft Hyper-V 環境で利用可能

## Microsoft Hyper-V クラスタ環境のサポート

- Microsoft Hyper-V クラスタ上の仮想マシンをエージェントレスでバックアップ
- ライブマイグレーションで移動した仮想マシンのバックアップも対応

## 仮想マシンの自動検出 + 自動バックアップ

- VMware vSphere や Microsoft Hyper-Vの仮想マシンを定期的に自動検出し、管理者にメールで通知
- VMware / Hyper-V 環境の新規仮想マシンを自動的に登録してプランに追加できるため、新規ノード追加時の漏れが無いバックアップと、運用の効率化が可能

## 様々なVMware vSphere 環境のサポート

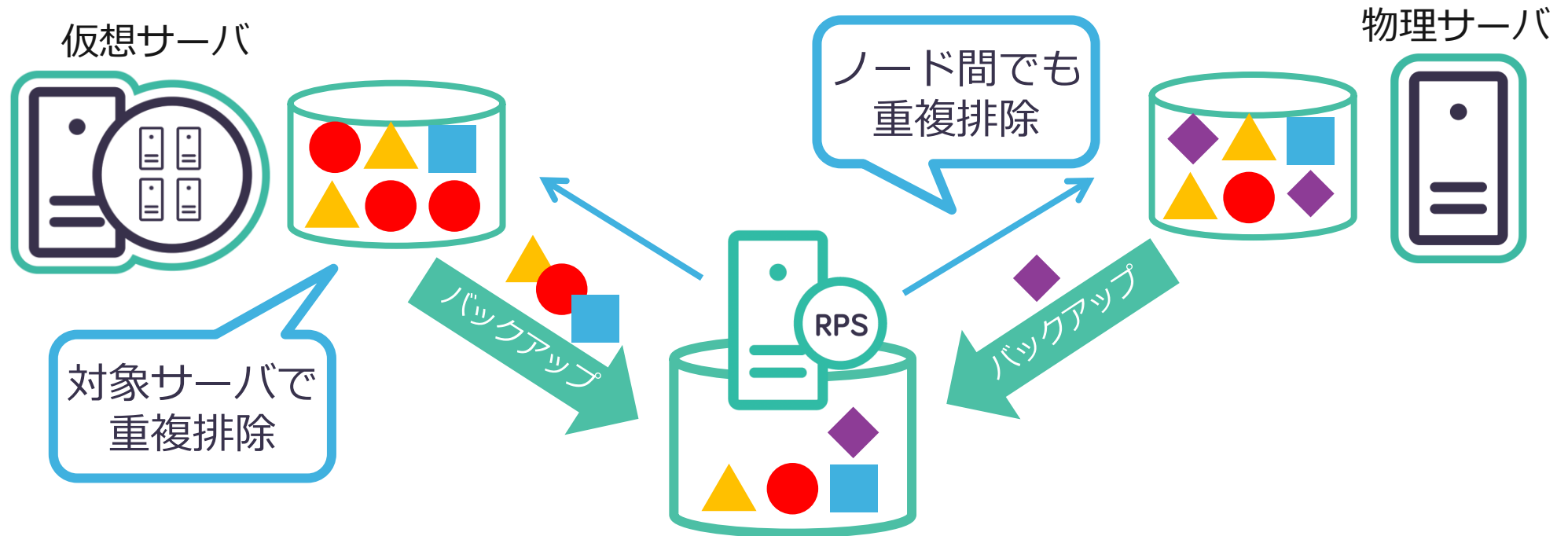
VMware vSphere vMotion、HA、vSANや vNetwork Distributed Switch (vDS)が利用されている環境のバックアップおよびリストアをサポート

参考：[vSphere ESXi の各機能 \(vMotion など\) に関する Arcserve UDP のサポート状況について](#)

# 重複排除によるバックアップデータの大幅削減

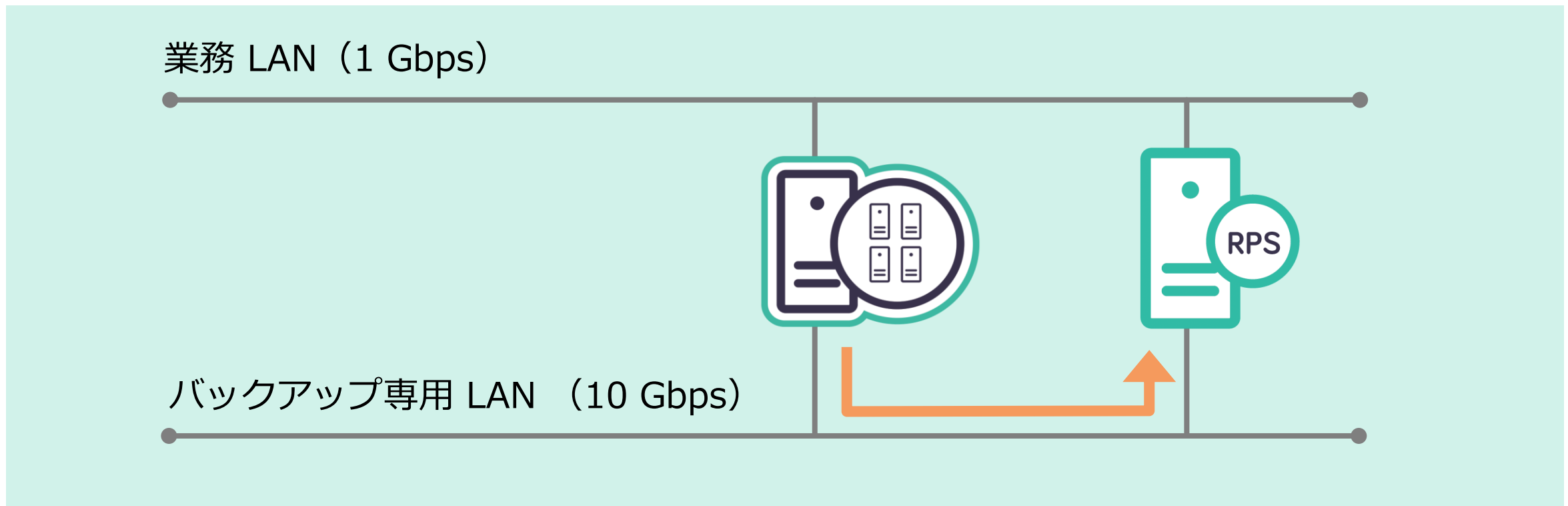
こんな時に  
便利！

- ➔ バックアップデータ容量を少なく保存したい
- ➔ ネットワークに流れるデータ量を少なくしたい



## 業務LANに負荷をかけない、高速バックアップの構成例

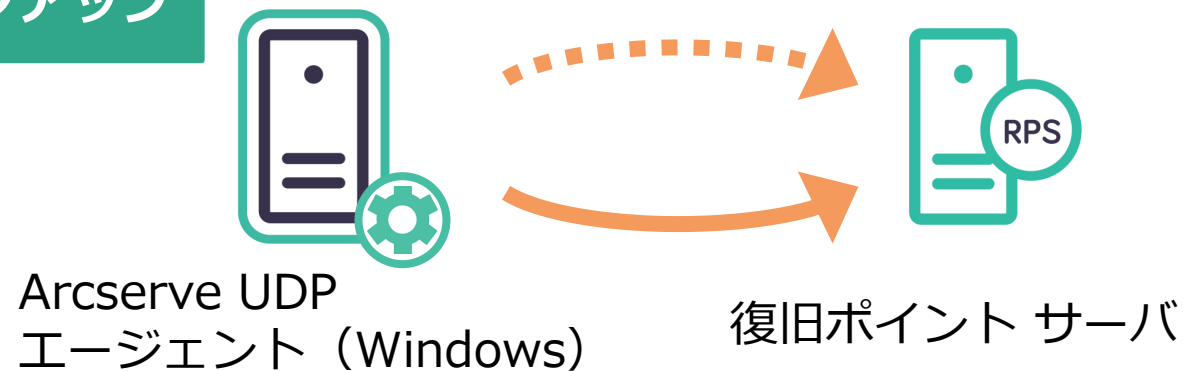
業務 LAN より高速なネットワークをバックアップ専用 LAN として指定すれば、**バックアップ時間の短縮**が期待できます！



## 物理/仮想環境のバックアップ時のネットワーク指定に対応

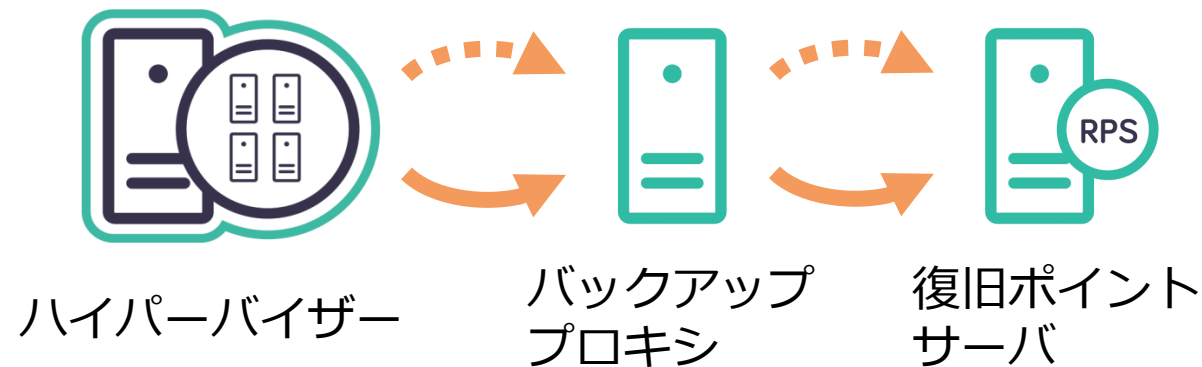
### 物理マシン(Windows エージェント)でのバックアップ

Arcserve UDP エージェント (Windows) 導入  
サーバと復旧ポイント サーバ (RPS) 間の  
バックアップ経路を指定できます。



### 仮想マシンの エージェントレス バックアップ

ハイパーバイザーとバックアップ プロキシ間、  
バックアップ プロキシと RPS 間の  
バックアップ経路をそれぞれ指定できます。



※ ハイパーバイザーは ESXi、Hyper-V、Nutanix AHVに対応しています。

# リストアやレプリケートでもネットワーク指定が可能

リストアやレプリケートによるバックアップデータ転送で業務LANへの影響を削減

## Linux エージェントでのバックアップ



## RPS 間のレプリケート



## Windows / Linux のファイルリストア



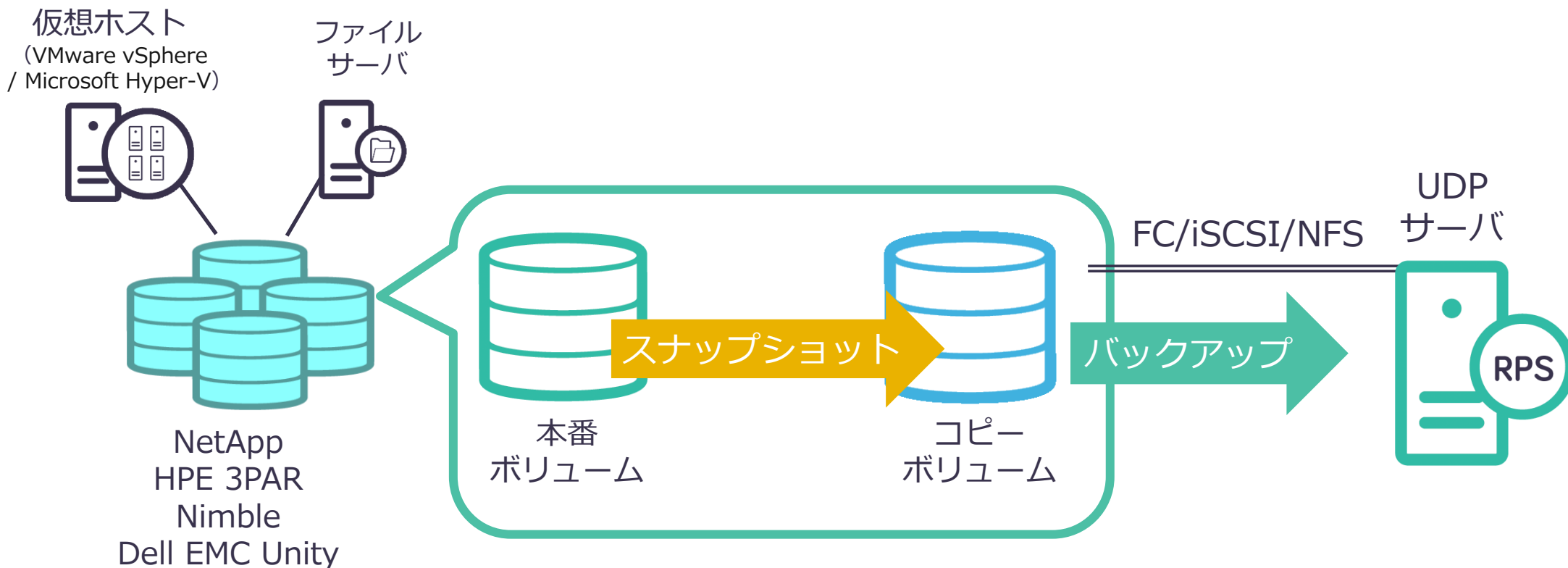
## VM の復旧



# ストレージと連携し、大容量を高速バックアップ

こんな時に  
便利！

- ➔ ハードウェア スナップショットと連携した高速バックアップを実現
- ➔ 構成次第でVM 領域やファイル サーバ領域のLANフリー バックアップも可能





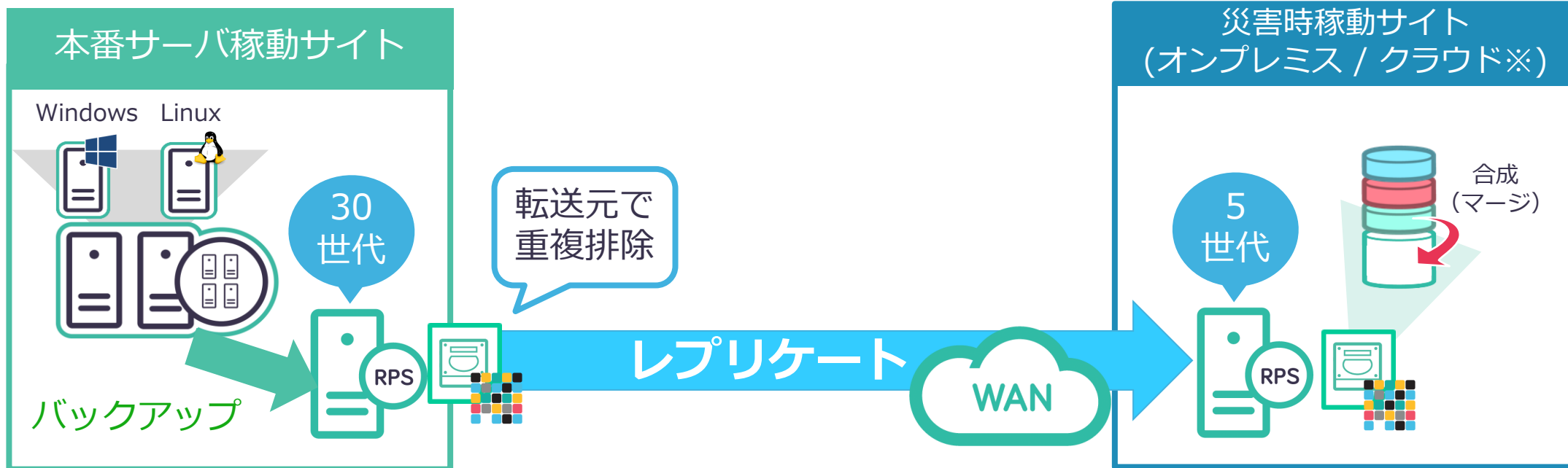
# Arcserve UDP のフォーカスエリア



# バックアップデータの遠隔地への転送（レプリケート）

こんな時に  
便利！

- ➔ バックアップデータを遠隔地に保管しておきたい
- ➔ WANに流れるデータは更に少なくしたい



重複排除で回線  
使用量を更に削減

特定の曜日・時間を指定  
して転送できる

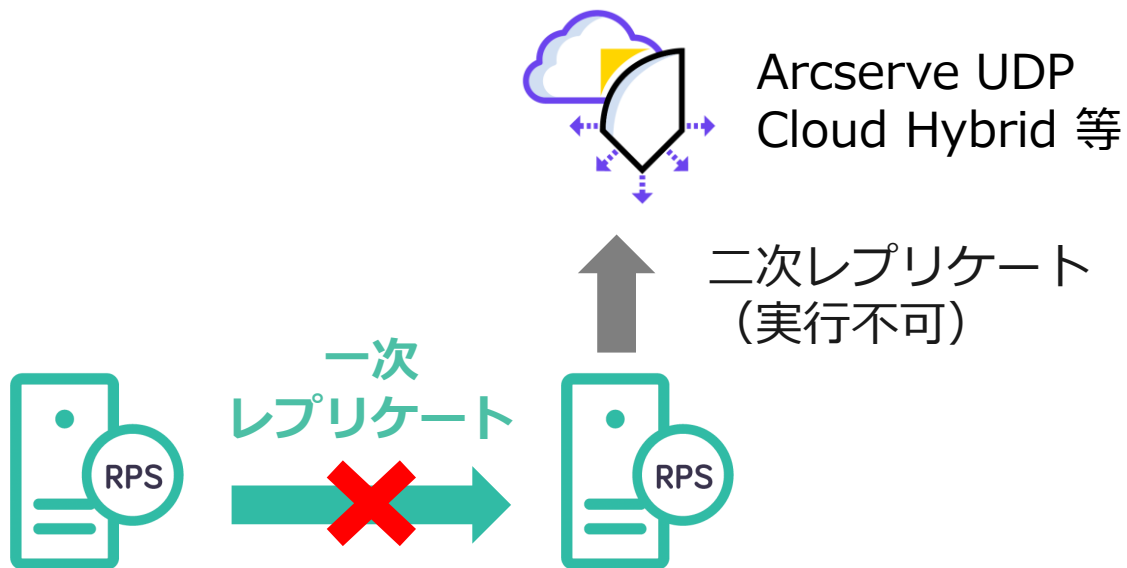
転送先での世代数を  
個別に設定できる

※ レプリケート先には復旧ポイントサーバ (RPS) が必要です。Arcserve UDP Cloud Hybrid には RPS がインストールされており、レプリケート先として利用することができます。

# 複数レプリケートの構成例 ~ ジョブ失敗時の挙動

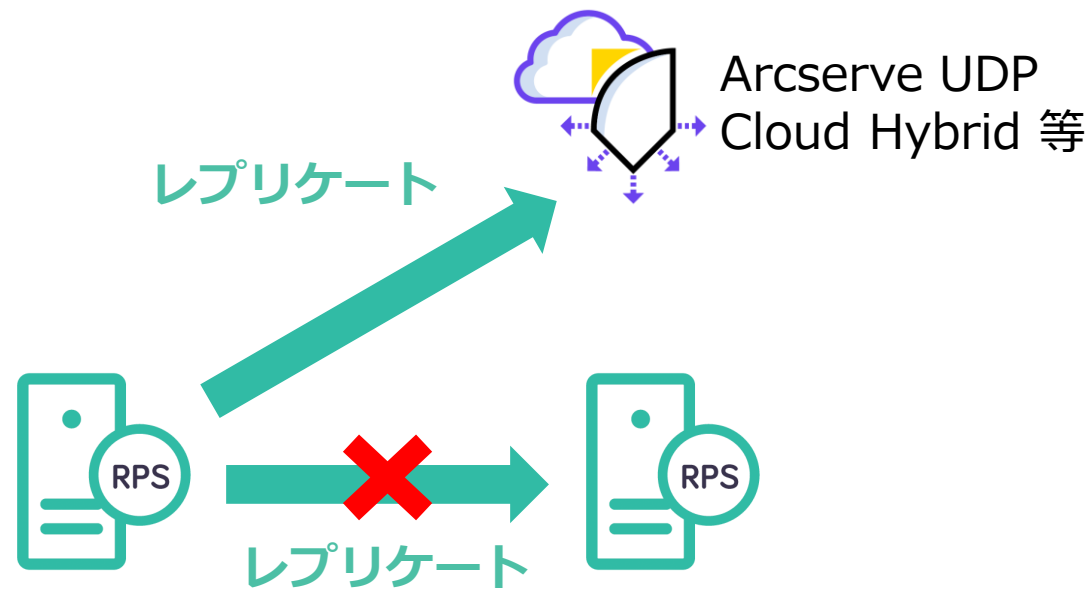
UDP  
10

## 1対1対1のレプリケート



一次レプリケート ジョブが失敗した場合、  
二次レプリケート ジョブは**実行不可**

## 1 対多のレプリケート (Arcserve UDP 10.0 以降)

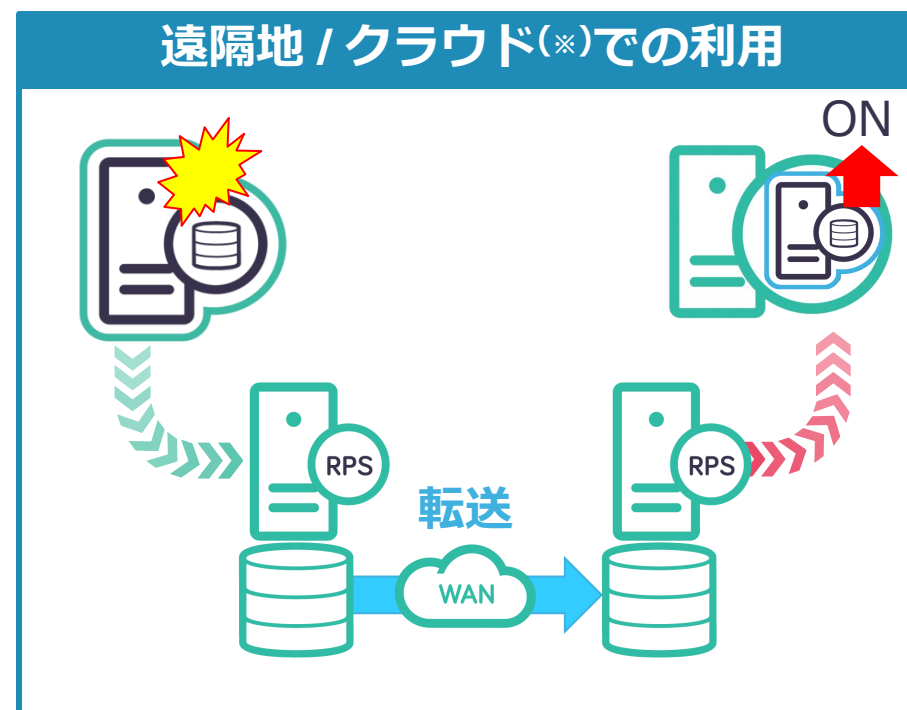
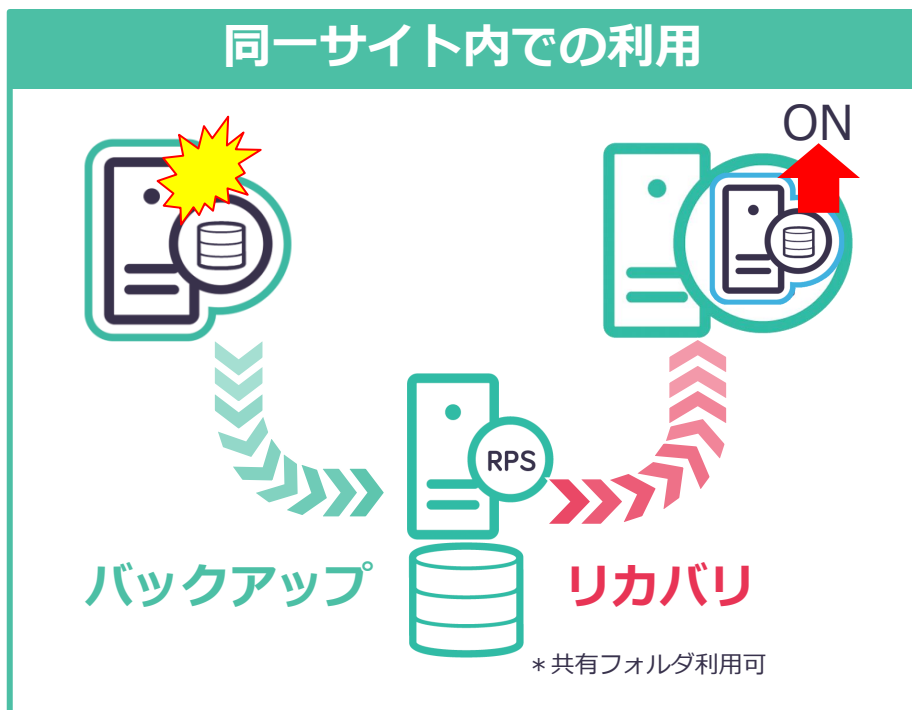


1か所レプリケートジョブが失敗しても  
他のレプリケート ジョブは**継続実行**

# 代替仮想マシンによる業務継続 (仮想スタンバイ)

こんな時に  
便利！

- ➔ 障害時にリストア作業せず、より早く環境を利用したい
- ➔ 災害時には遠隔地またはクラウドでサーバを即継続利用したい



復旧済みの仮想マシンで  
素早く業務を再開

ローカル / 遠隔地でも構成  
できる

複数のスナップショット  
から適切な時点に戻せる

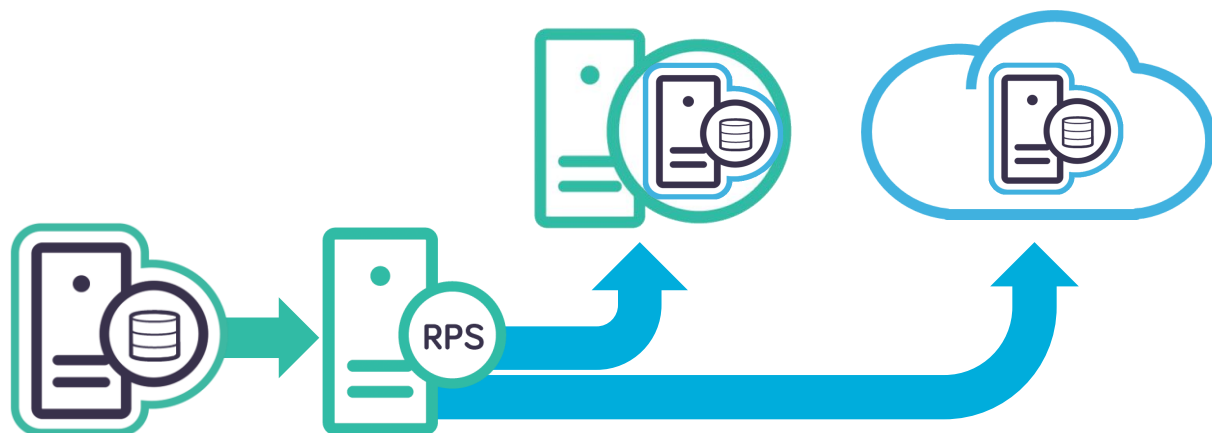
※ Amazon EC2、Microsoft Azure、Google Cloud、Arcserve UDP Cloud Hybrid をサポート

# 仮想スタンバイの手動実行 (アドホック仮想スタンバイ)

あらかじめ仮想環境やクラウド環境に仮想ディスクなどのリソースは不要！！  
必要になった時点で仮想スタンバイを実行

Hyper-V  
VMware  
Nutanix AHV

Amazon EC2  
Azure  
Google Cloud



バックアップ

仮想スタンバイ ジョブを  
手動で実行

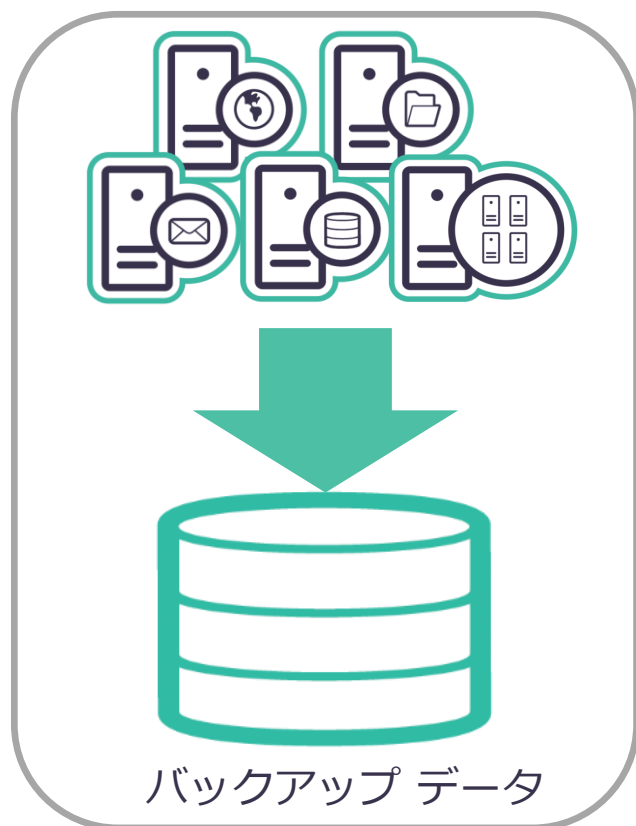
- ✓ バックアップ元と仮想スタンバイ先が異なる仮想環境でも利用が可能
- ✓ バックアップ または レプリケートのデータで実行可
- ✓ 複数個所にスタンバイ VM を作成できる

※ 仮想スタンバイ ジョブの手動実行には RPS が必須

# バックアップデータからサーバの替わりを即作成 (インスタント VM)

こんな時に  
便利！

- ➔ 予算が無く、代替環境を予め用意していない場合でも直ぐに業務を再開したい
- ➔ ウイルスなどの被害時に本番サーバの替わりを用意したい



数ステップの  
簡単なウィザードで  
僅か10分ほどで起動

## インスタント VM



復旧先の仮想環境

(VMware vSphere / Microsoft Hyper-V / Nutanix AHV  
/ AWS EC2 / Microsoft Azure / Arcserve UDP Cloud Hybrid) ※

バックアップデータから  
直接サーバ起動

※Windows のインスタント VM は VMware vSphere, Microsoft Hyper-V, Arcserve UDP Cloud Hybrid 環境のみ

# インスタント VMと仮想スタンバイとの違い

## インスタント VM 低コスト

バックアップ

RPS

サーバ起動

ON

※WindowsのIVMはvSphere, Hyper-V, Arcserve UDP Cloud Hybrid環境のみ

- ❑ 事前準備が不要
- ❑ バックアップデータを参照するVMを起動
- ❑ VM 格納用のディスク領域は不要
- ❑ Windows & Linux をサポート
- ❑ バックアップデータの健全性確認に利用できるため、ランサムウェア対策にもお勧め

## 仮想スタンバイ 低遅延

バックアップ

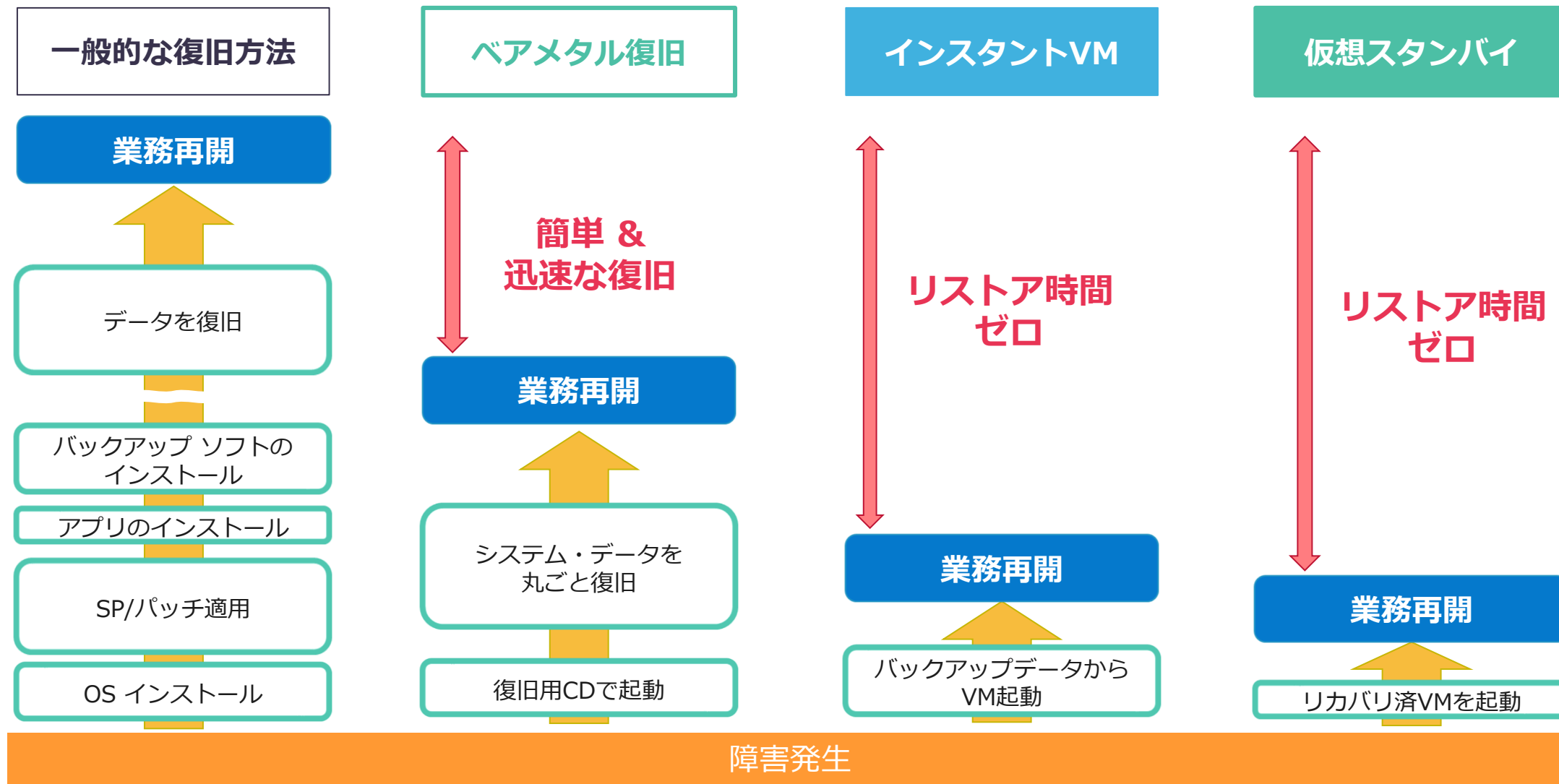
RPS

自動リカバリ

ON

- ❑ バックアップ時にリカバリまで実行済
- ❑ バックアップデータを参照しないVMを起動するので、遅延が少ない
- ❑ スタンバイVM分のディスクが必要
- ❑ Windows をサポート

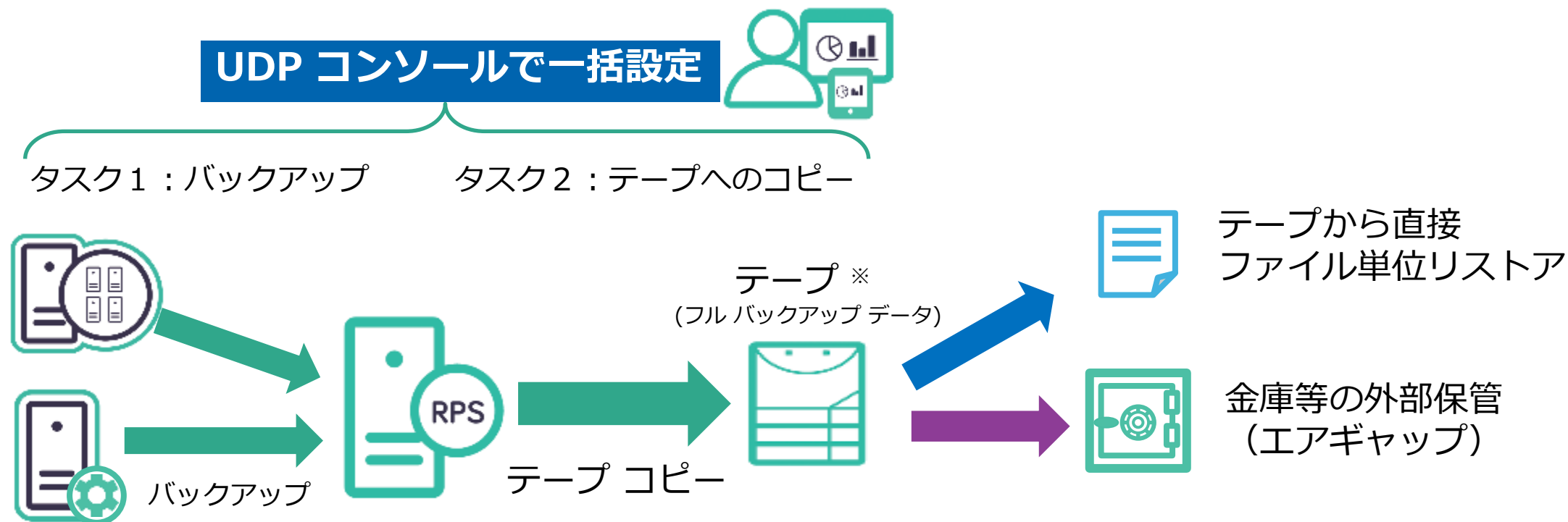
## <参考> 業務再開までの時間で比較





## テープを利用した災害対策 (Arcserve Backup との連携)

バックアップデータをテープに保存してデータ保護を強化  
監査対応のため長期間バックアップ データ保管や、災対サイトへの移送、  
ランサムウェア対策にも有効



※ シングル テープ ライブラリの場合は Advanced Edition で利用可

# Arcserve Backup の利用で、より多彩な要件に対応

UDP に対応するバックアップ構成を Arcserve Backup でさらに拡張

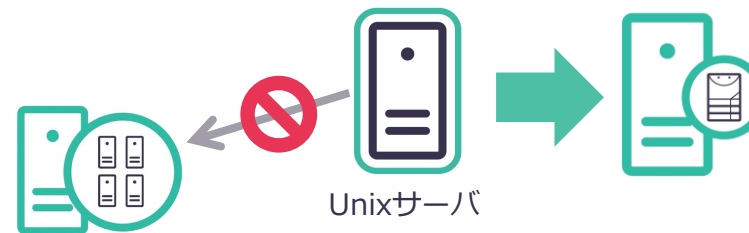
## ファイル/フォルダ単位の バックアップ

特定のファイルやフォルダのみを指定して  
バックアップ



## Unix サーバのバックアップ

仮想環境に統合できないUnixサーバも  
まとめてバックアップ



## テープ バックアップの強化

D2Tでの直接バックアップや複数ドライブ  
搭載のテープライブラリの利用をサポート



## Arcserve Backupのその他機能

Arcserve Backupのエージェント/オプション  
機能をすべて利用可能\*



※日本でサポートされているエージェント・機能のみ

# 災害対策をさらに強化

Arcserve Replication/HA の機能を利用し、より細かな災害対策要件にも対応

## ファイル単位のレプリケーション

ファイルサーバのリアルタイム レプリケーションにより、鮮度の高いデータを遠隔保護



P

## アプリケーションの可用性向上

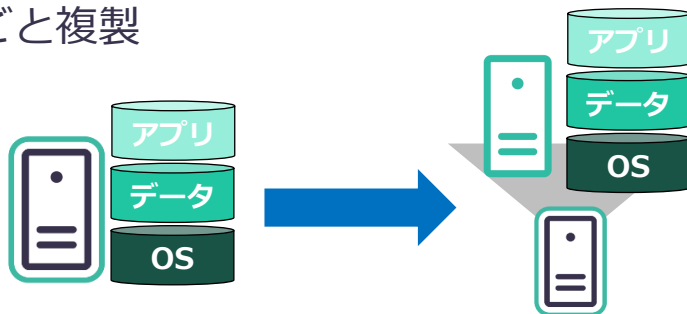
MS SQL ServerやOracleデータベースなどアプリケーションのデータを複製、スイッチオーバーまでサポート



P+

## OS/データのまるごと複製にも対応

フル システム シナリオで、OS/データを丸ごと複製



P+

## Arcserve RHA その他機能

Arcserve Replication/HAのシナリオおよび機能をすべて利用可能 ※



P+

※日本でサポートされているシナリオ・機能のみ

## 2. 様々なクラウド利用のニーズ への対応

# 様々なクラウド利用のニーズへの対応

## クラウド利用のニーズ

オンプレミスの  
災害対策

クラウドで  
即事業継続

IaaS/PaaS/SaaS  
データの保護

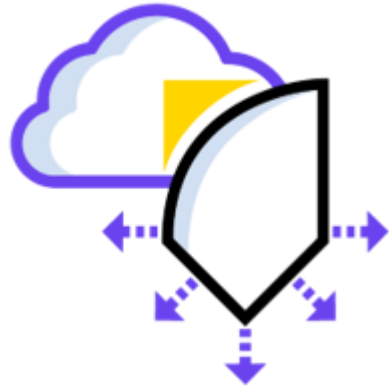


## 利用可能なクラウドサービス

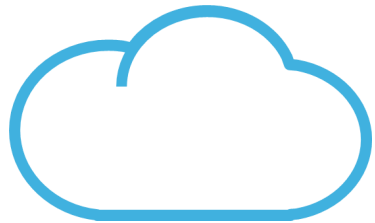
Arcserve  
クラウドサービス

パブリック  
クラウドサービス  
(AWS, Azure, Google  
Cloudなど)

## 利用可能なクラウドサービス①



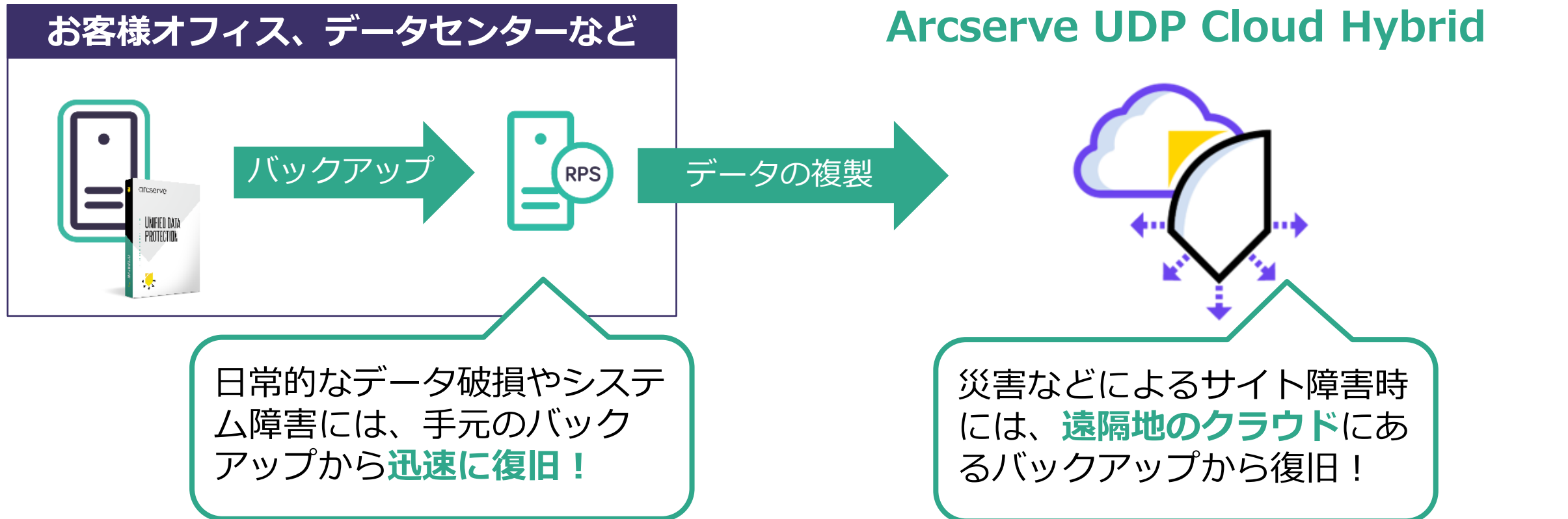
Arcserve クラウドサービス



パブリック クラウドサービス

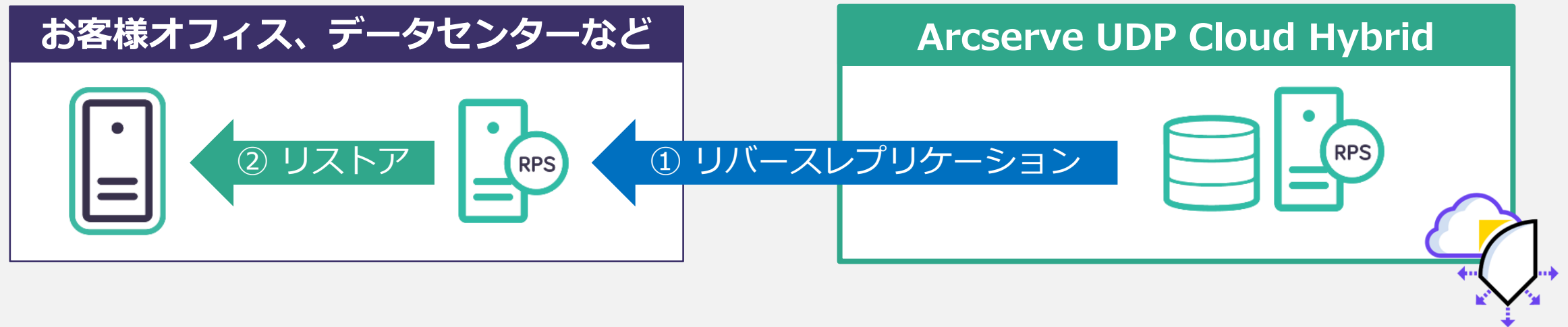
## Arcserve クラウドサービス ~ Arcserve UDP Cloud Hybrid とは ~

Arcserve UDP / Arcserve UDP Appliance が持つ復旧ポイントサーバ（RPS）間のレプリケート（複製）機能を活用し、オンプレミスでの利便性の高いバックアップと、災害に備えた遠隔バックアップの「**ハイブリッド**」を実現するサービスです。



## Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン1 ～ 災害によるサイト障害からシステムを復旧

オンプレミスのバックアップ データが災害などで失われた場合には、クラウドから RPS へ逆レプリケーション(リバースレプリケーション機能)し (①)、そのバックアップ データからシステムをリストアします (②)。



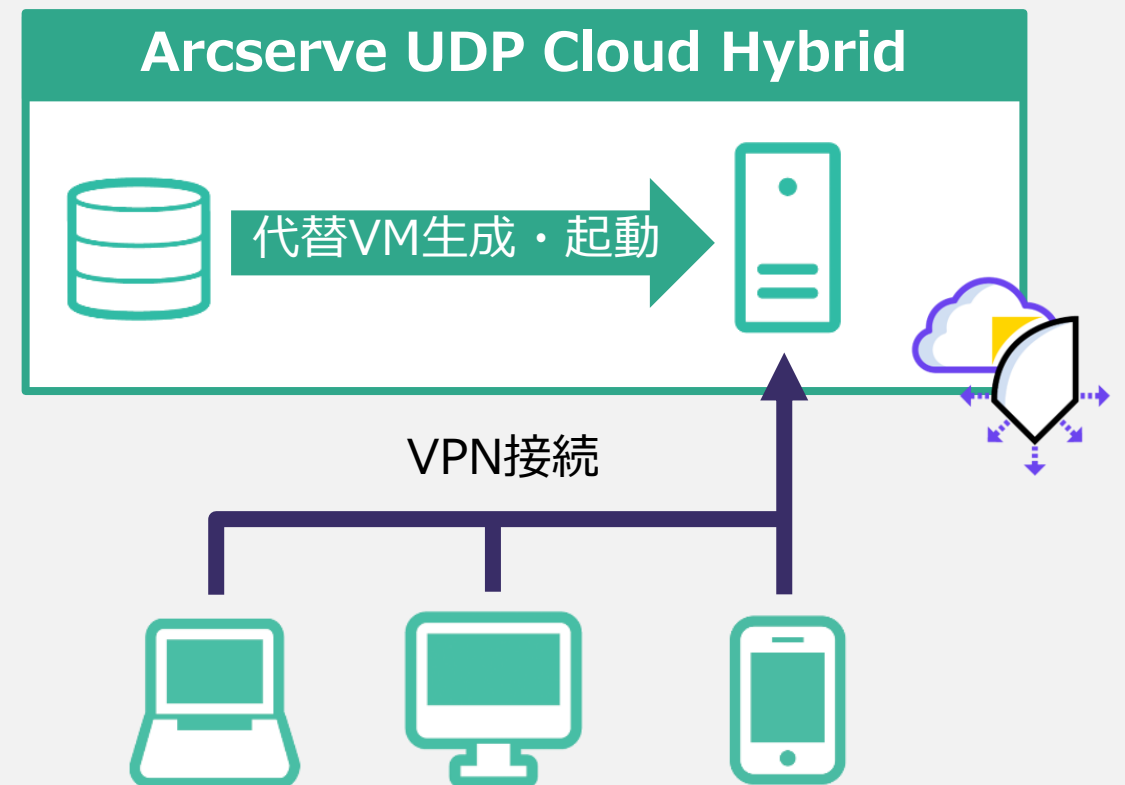
※ ファイル/フォルダ の直接リストアも可能です。ただし、Linux の場合 Compute リソースの購入が必要です。

※リバース レプリケーション機能により、バックアップ データをクラウドから複製する際のお客様側ホスト名の提供やポート開放は不要です。



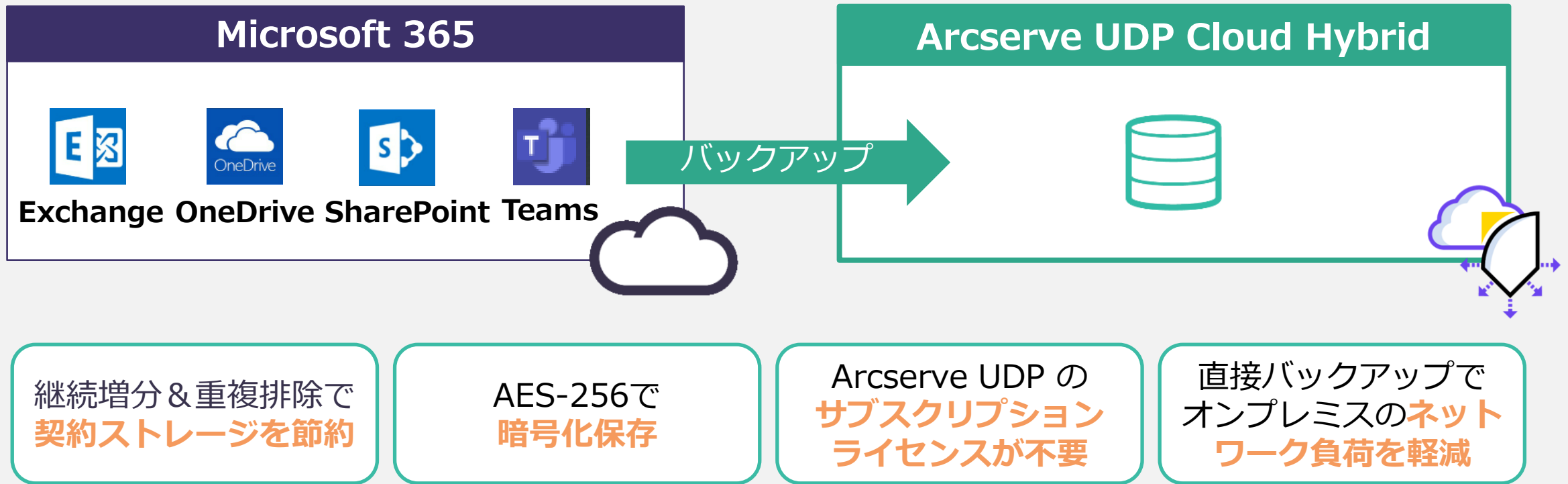
## Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン2 ～ 災害時にクラウド上でシステムを継続利用

本番システムの障害時には、インスタントVMまたは仮想スタンバイ機能で、本番システムの代替仮想マシン（VM）を起動。VPN経由で代替VMにアクセスし業務を継続できます。



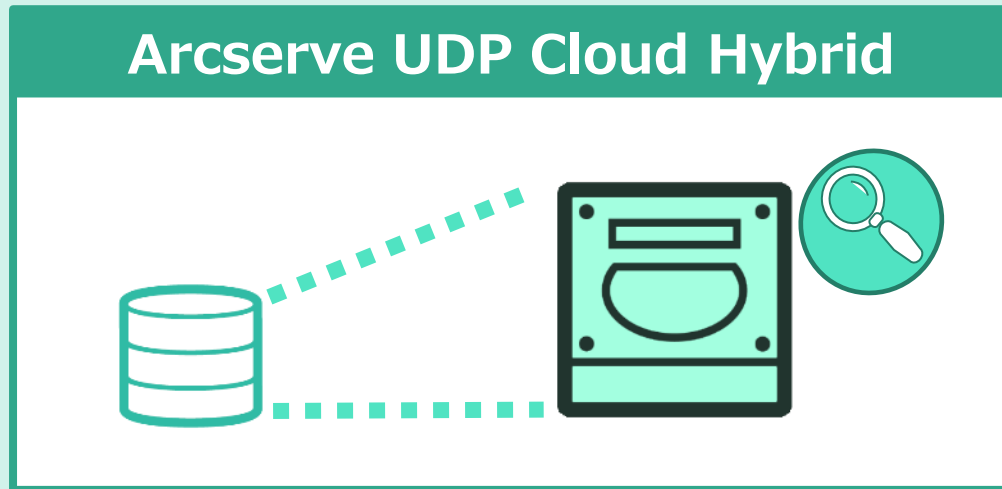
## Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン3 ～ Microsoft 365 のデータを直接クラウドへバックアップ

Microsoft 365 に限り Arcserve UDP Cloud Hybrid に**直接バックアップ**できます。  
しかも Arcserve UDP の**サブスクリプションは不要**！  
退職者アカウントなどの保存期間を過ぎたファイル/メールを復旧できます。



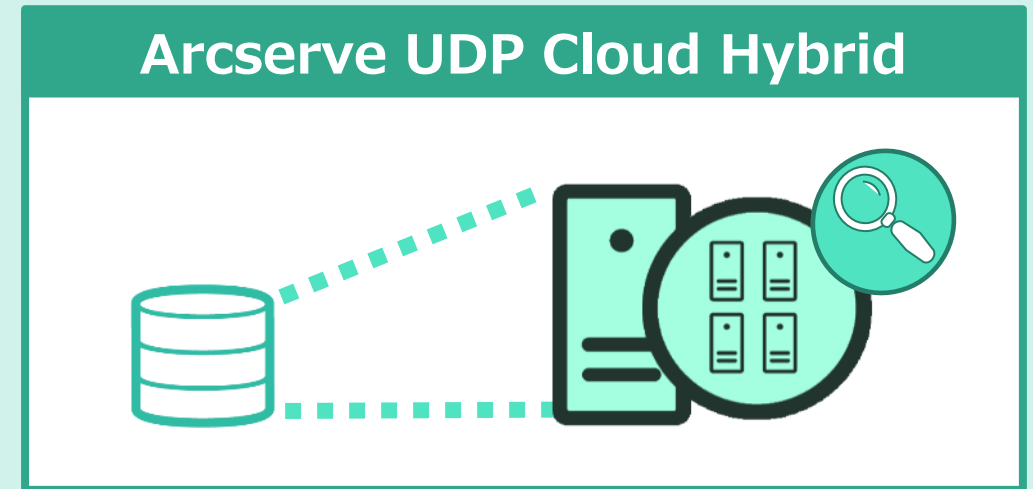
# Arcserve UDP Cloud Hybrid で使えるアシュアード リカバリ機能 ～ レプリケートされたデータがリストア可能か自動でチェック

Windows/Microsoft365 のバックアップデータは**インスタント仮想ディスク方式**※1で状態確認



- ✓ スケジュールを指定して**自動実行**
- ✓ 確認結果を管理者へ**メールで通知**

Windows/Linux のバックアップデータは**インスタントVM方式**※2で起動確認



※1 CHKDSK でファイルシステムの整合性を確認できます。

※2 Compute リソースの購入が必要です。



## 2つのコスト メリットで “はじめやすい”

導入  
コスト



### クラウド インスタンスの構築/設定作業は一切不要

- ◆ サービス契約後、クラウドを利用したバックアップ/アーカイブ運用を すぐに開始 できる状態でクラウド アカウントをご提供します
- ◆ インスタンス構築に関連する 面倒な設定作業は一切不要。  
ネットワークやセキュリティも設定済なので、すぐに運用が始められます



ランニング  
コスト

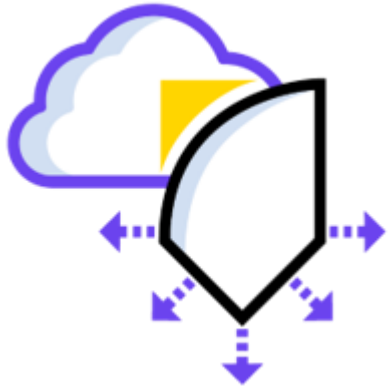


### ご契約いただいたストレージ範囲内なら台数無制限で保護

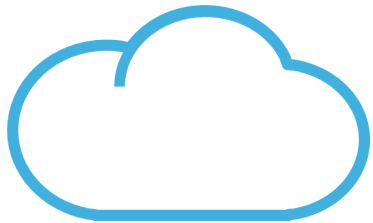
- ◆ 転送量に対する 課金がなく、ストレージ課金も年契約で固定なのでコスト見積もりも容易。契約期間中でも 容量増加の追加契約 ができるので契約時の容量が不足して運用を止める心配がありません
- ◆ ストレージやインスタンスのメンテナンスは、全てArcserveにお任せ、メンテナンス作業は一切不要です



## 利用可能なクラウドサービス②



Arcserve クラウドサービス



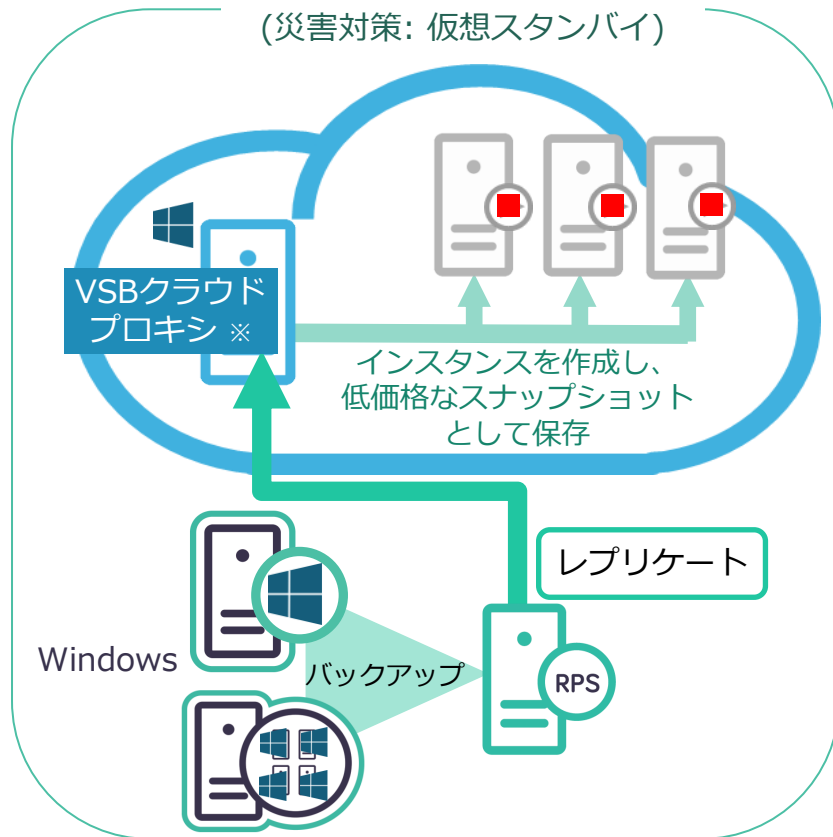
パブリック クラウドサービス

# Amazon EC2 / Microsoft Azure / Google Cloud を利用した Windows 環境の事業継続

## リストア時間 “ゼロ” でクラウドに即事業継続

### 通常時

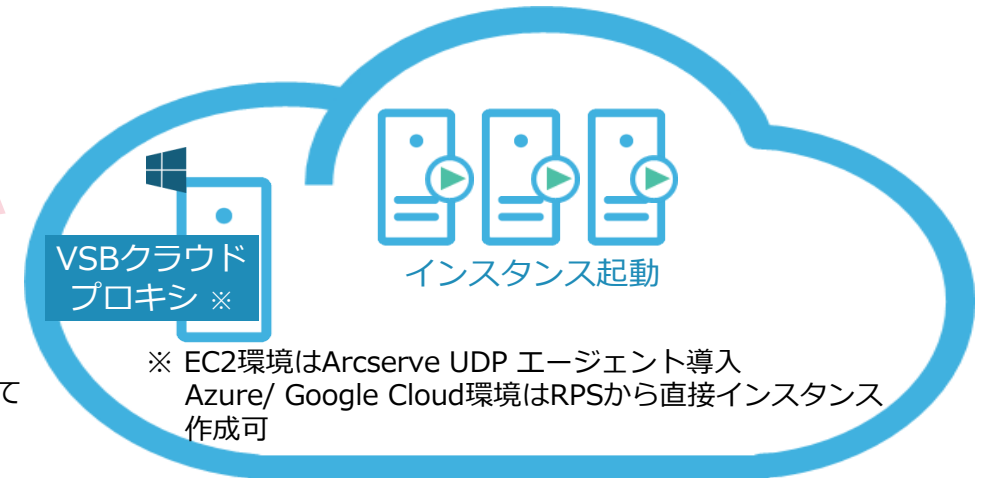
(災害対策: 仮想スタンバイ)



### 災害時



Azureでは低価格なBlobストレージにディスクイメージを保管  
起動時にインスタンスを作成してアタッチ



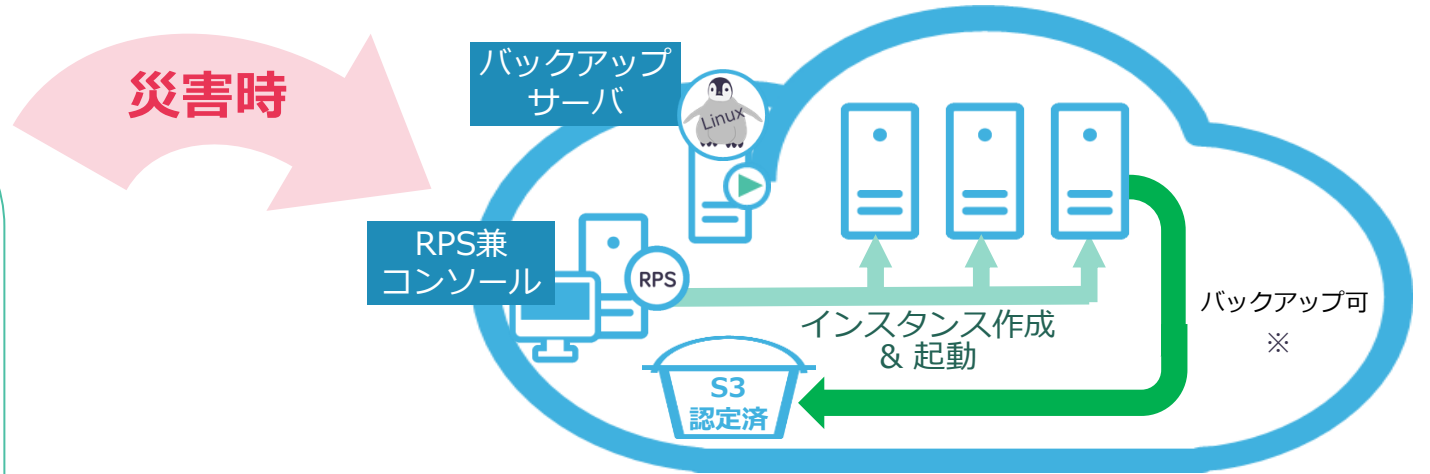
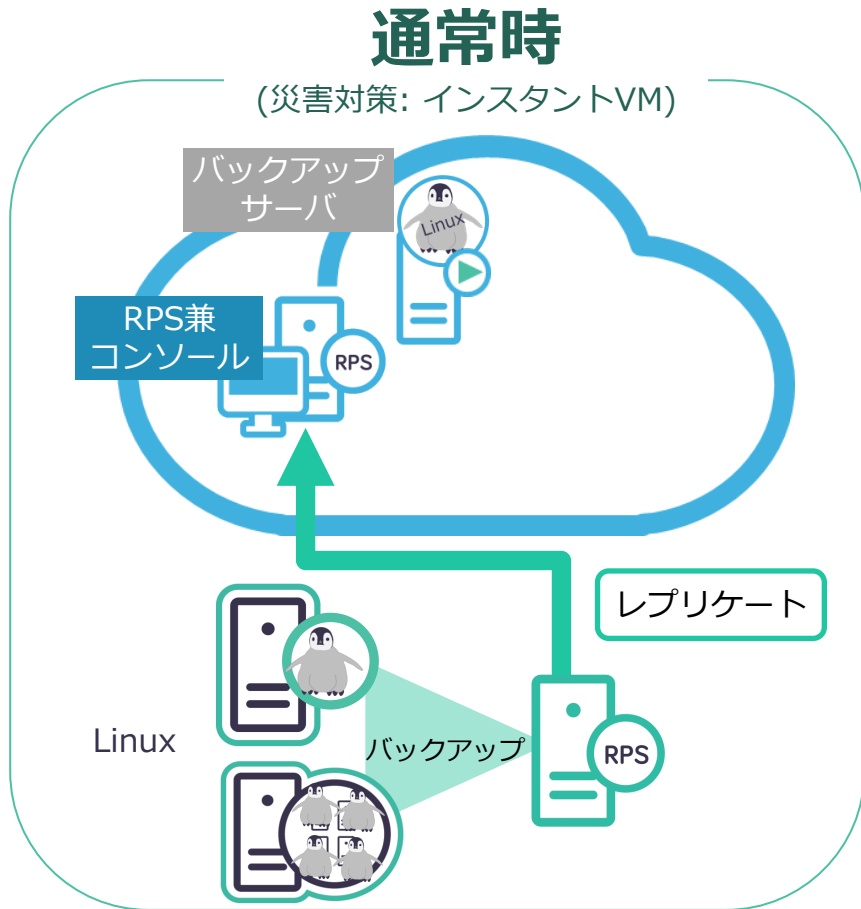
作成済みインスタンスを起動する  
だけで業務サービスを即再開

大規模災害対応

オンプレミスへの復旧も可  
(RPSレプリケート機能利用)

# Amazon EC2 および Microsoft Azure を利用したLinux 環境の事業継続

## リストア時間 “ゼロ” でクラウドに即事業継続



わずか数ステップでインスタンス作成し、業務サービスを即再開

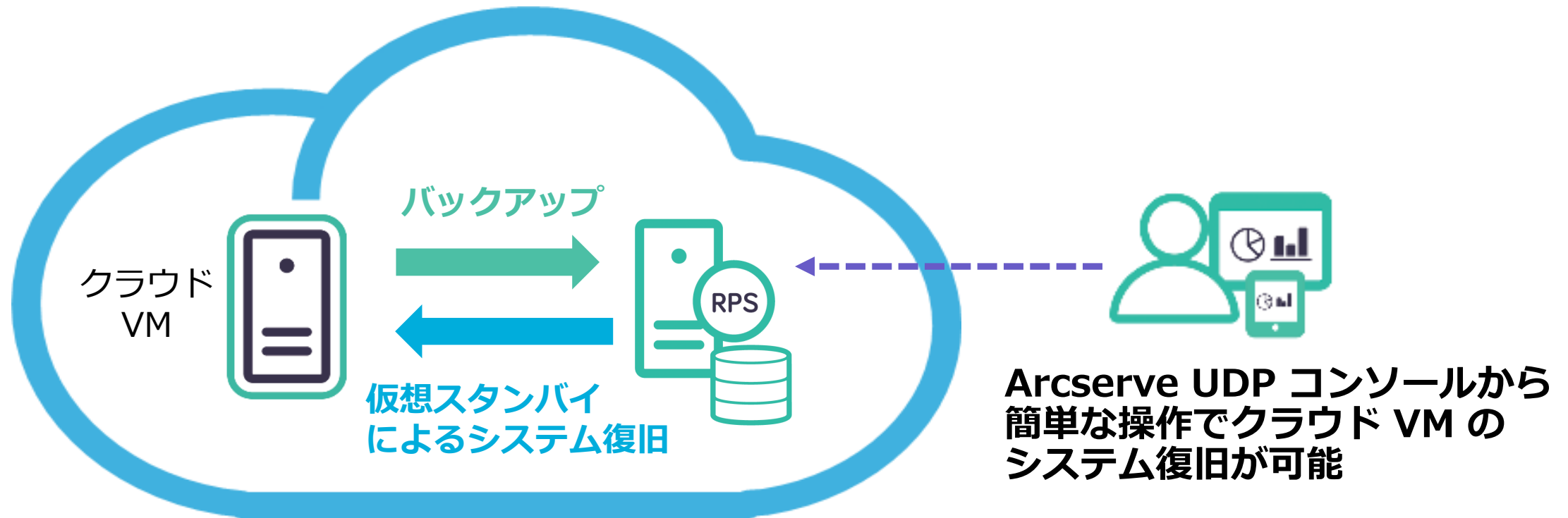
大規模災害対応

インスタントVMから  
オンプレミスへのBMRも可

※ インスタントVMを S3 に直接バックアップし、オンプレミスへBMR可能

## パブリック クラウドのシステム復旧

アドホック 仮想スタンバイを使用すると、パブリック クラウド(Amazon EC2, Azure, Google Cloud) 上のシステム復旧が簡単に出来る

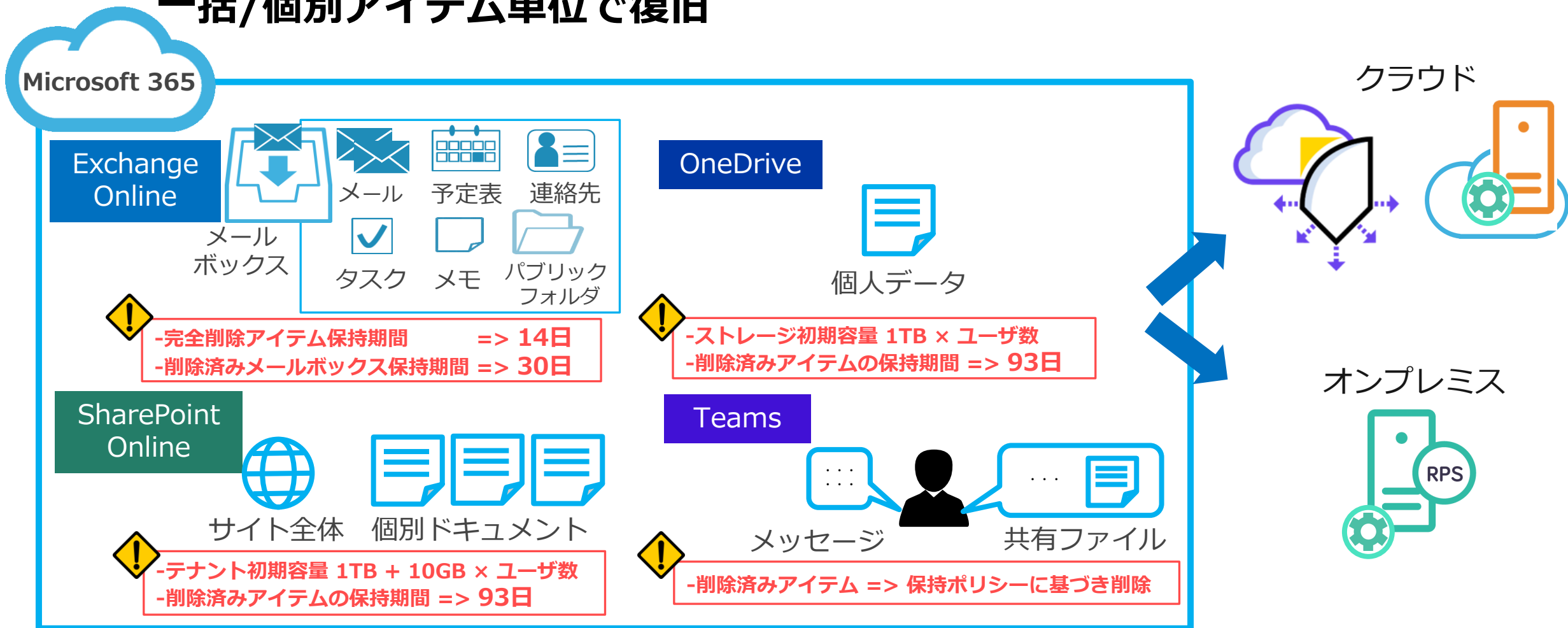


※ 仮想スタンバイ ジョブの手動実行には RPS が必須  
arcserve®



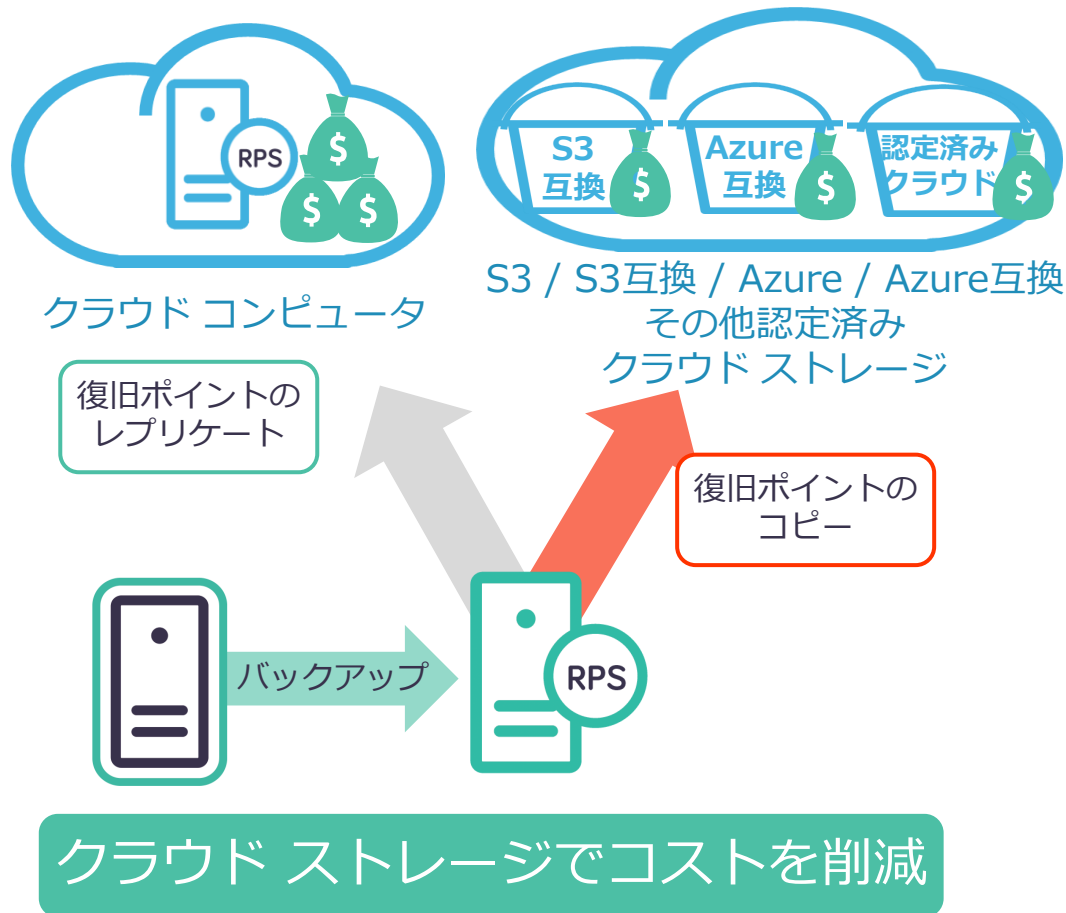
# Microsoft 365 のバックアップ

## 重要データや退職者のメールをクラウドやオンプレミスにバックアップ 一括/個別アイテム単位で復旧

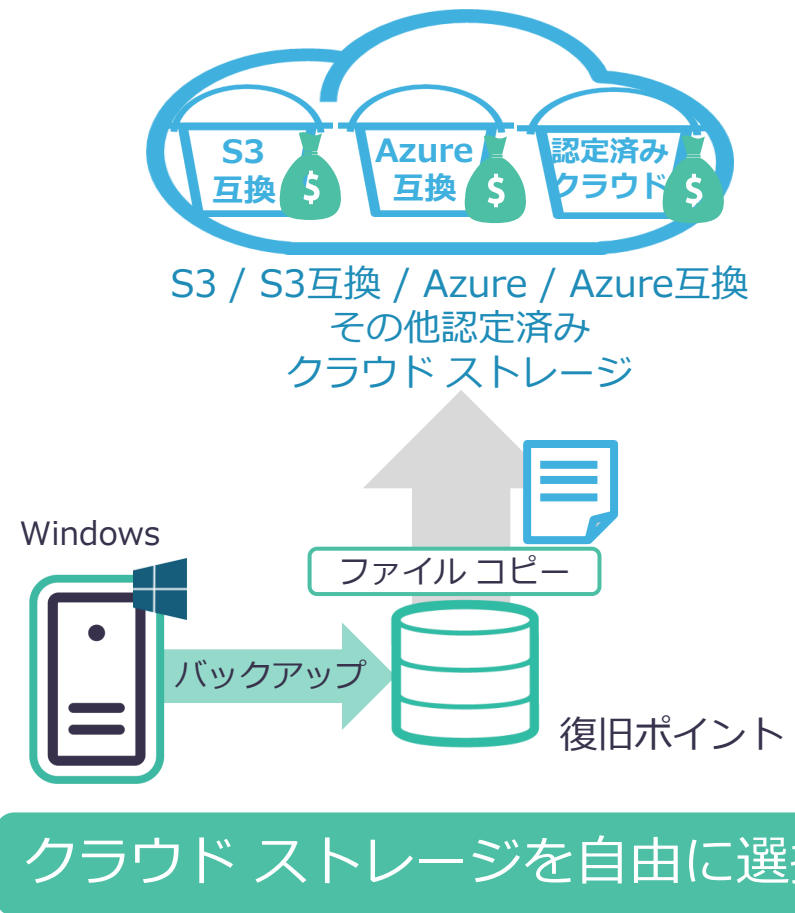


# クラウド ストレージへの二次バックアップ

## バックアップデータのクラウド保管



## 重要ファイルをクラウド保管



# Amazon S3 / S3 互換への直接バックアップ

手軽なクラウドストレージを利用して Linux 環境の災害対策を実現



オンプレミスの  
ディスク削減

Windows サーバ(RPS)不要

オンプレミスへのBMRも可

※ クラウドストレージからのファイル単位リストア可

# 様々なクラウド利用のソリューションを提供

## オンプレミスの 災害対策

### オフサイト保管:

- UDP Cloud Hybrid / EC2 / Azure などへの RPS間レプリケート

- 復旧ポイント(バックアップデータ)のコピー
- ファイル コピー

### ダイレクト バックアップ:

- Linux サーバを S3 に直接バックアップおよびオンプレミスへの BMR

## クラウドで 即事業継続

### バックアップデータを用いた事業継続:

- UDP Cloud Hybrid への仮想スタンバイ、インスタントVM

- AWS EC2 / Azure / Google Cloud への仮想スタンバイ  
AWS EC2 / Azure へのインスタントVM

## IaaS/PaaS/SaaS データの保護

### IaaS/PaaS:

- クラウド コンピュータのバックアップ

- EC2インスタンスからオンプレミスへのBMR
- EC2 / Azure のLinux インスタンスのバックアップおよびBMR

### SaaS:

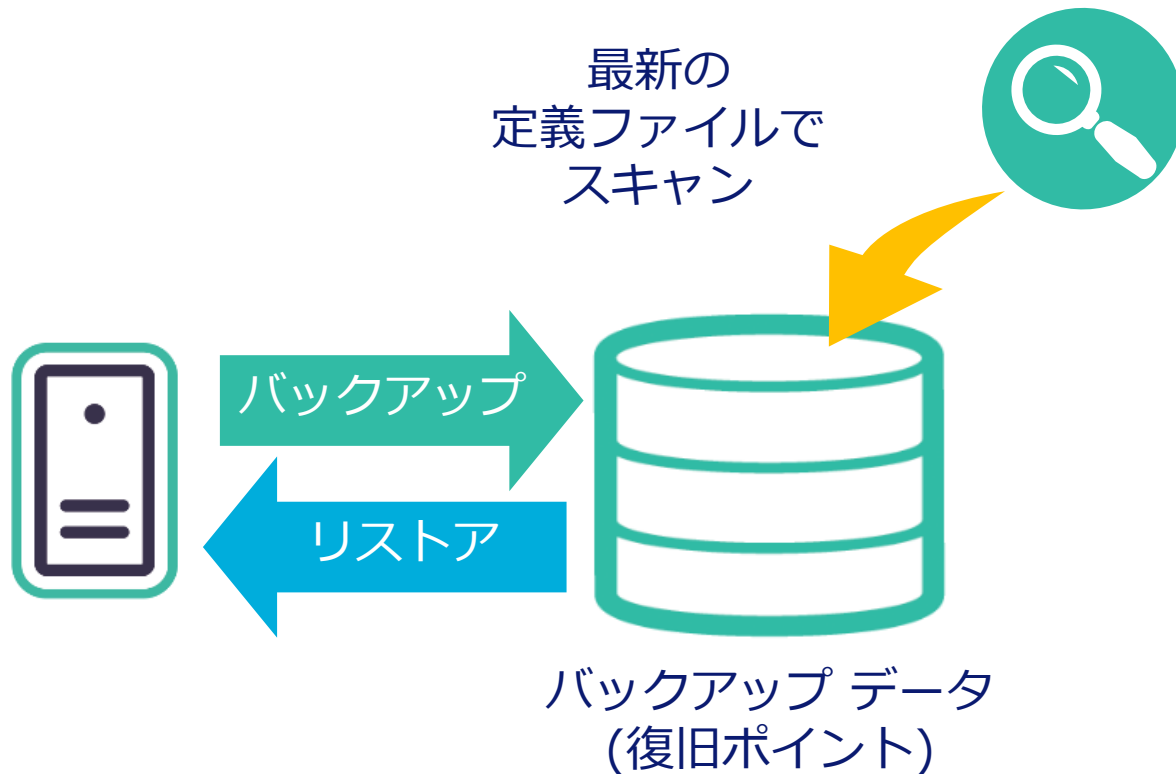
- Microsoft 365 バックアップ (Exchange / SharePoint / OneDrive / Teams)

※ “■” 部分は Arcserve UDP Cloud Hybrid 対応

# 3. セキュリティの確保 & ランサムウェアへの対策

## バックアップデータの安全性を確認 (アシュアードセキュリティ スキャン)

### 安全確認が取れたバックアップデータでリストアができる



- ✓ バックアップ後に自動、またはリストア前など手動でバックアップデータのウイルススキャンが可能
- ✓ スキャンは安心の Microsoft Defender を利用
- ✓ 最新のセキュリティ定義ファイルでウイルスやワームの侵入検知

※ Arcserve UDP Premium Edition 以上が必要

# アシュアード セキュリティ スキャンの実行環境

## バックアップデータのスキャンは「プロキシ」が実行

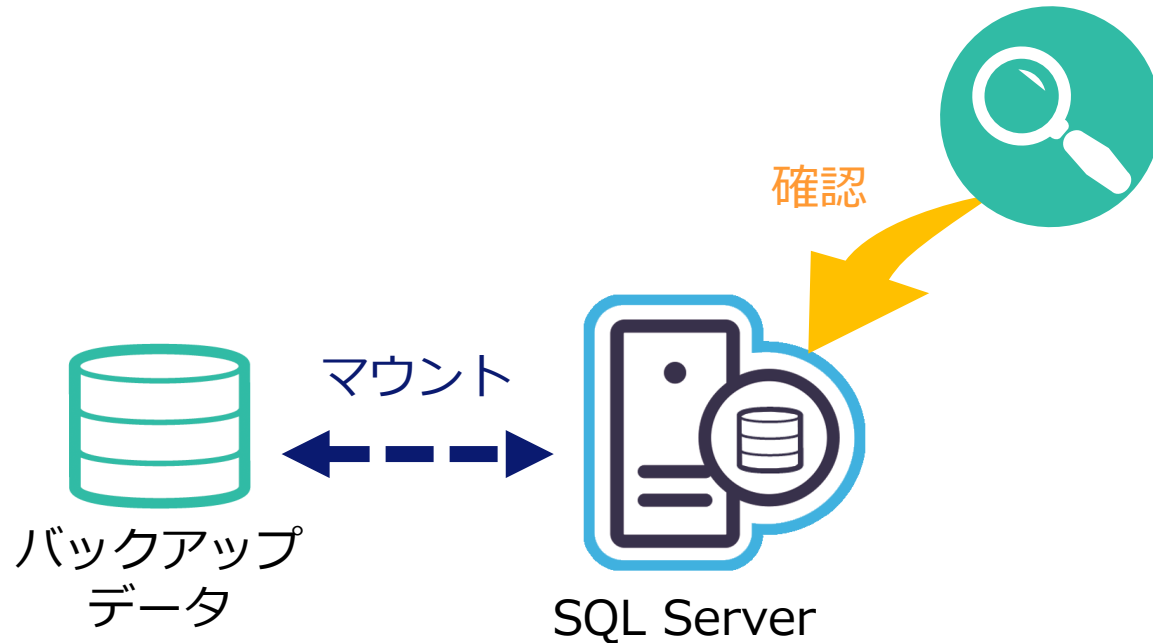
- ✓ 本番サーバ/本番サービスに負荷がかからない
- ✓ 本番サーバのアンチウイルス製品はそのまま利用可



※1 UDP Windows Agent または 復旧ポイントサーバ (RPS) が兼務可  
※2 プロキシサーバの Microsoft Defender サービスがスキャン

# SQL データベースのバックアップデータの安全性を確認

リストア前にデータベースの内容を確認できるので、無駄なリストアを避けられ、復旧時間を短縮できる



- ✓ バックアップ データを疑似 DB として Microsoft SQL Server にマウント
- ✓ 任意の時点の DB データでマウント可能 (PiTリストア有効時)
- ✓ RPS または ローカルディスクや共有フォルダのバックアップ データを利用可
- ✓ 編集可能な検証用データベースとしても利用可



# Arcserve UDPコンソールを多要素認証で保護

管理画面へのログオン方法として多要素認証（MFA）が利用可能に

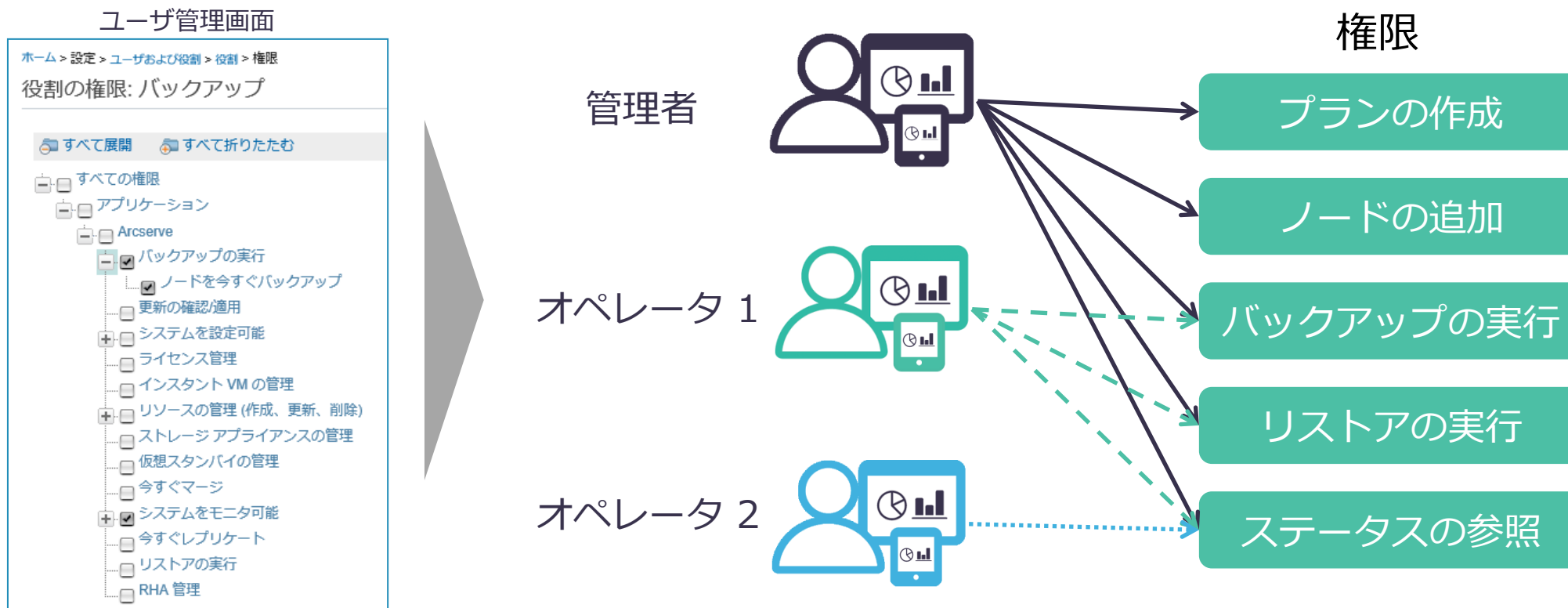


パスワード入力に加えて、確認コードの受信/入力を必要とすることで不正アクセスリスクを低減

# ユーザごとに権限を割り当てセキュリティ強化

こんな時に  
便利！

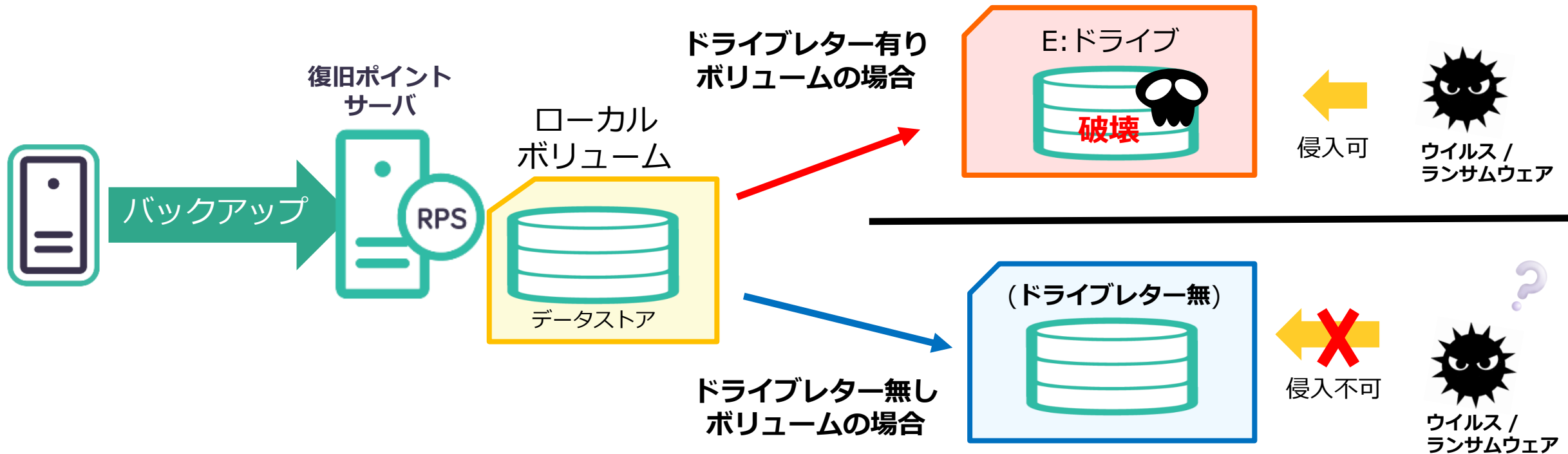
- ➔ 管理者以外にはバックアップ設定を変更させたくない
- ➔ オペレータにはステータス参照だけを許可したい



ユーザごとに操作権限を設定してセキュリティを強化

# 復旧ポイントサーバのバックアップデータ保護

復旧ポイントサーバ（RPS）内のエクスプローラーから見えない領域にバックアップデータを保管

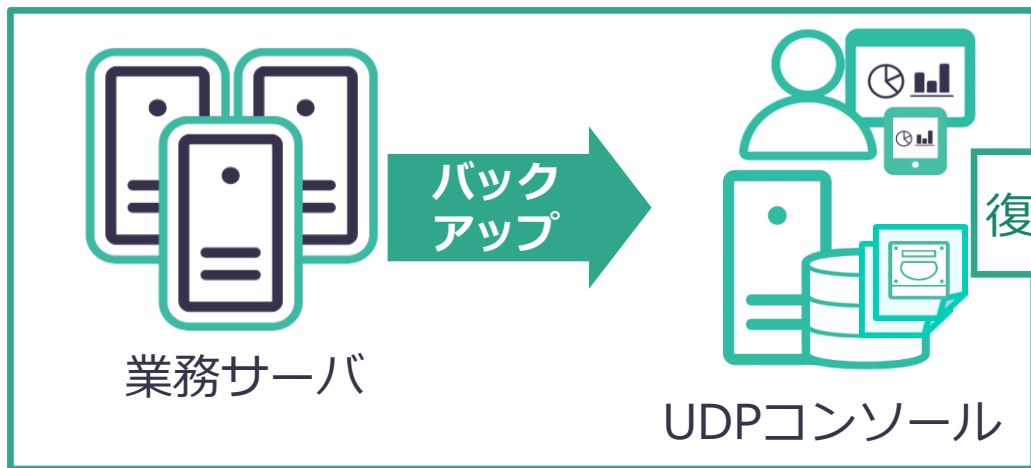


RPS 内に侵入したウイルスやランサムウェアからバックアップデータを保護

# オブジェクトロックを活用しランサムウェア対策

「復旧ポイントのコピー」が不変ストレージ（オブジェクトロック機能）に対応  
バックアップデータの改ざんを防止

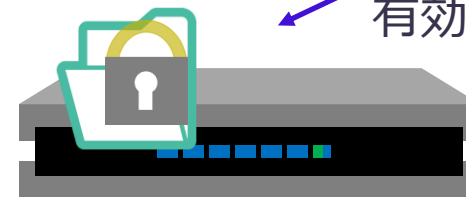
## オンプレミス



- Amazon S3
- Wasabi Hot Cloud Storage



オブジェクトロック  
有効のバケット



- Nutanix Objects

法規制やコンプライアンス  
などのデータ保持に利用

ストレージ側の設定で  
保持期間後の削除も可能

フルイメージを戻して  
システム復旧の利用が可

# 4. ライセンス

# ライセンスの課金対象

ライセンスは「**バックアップ対象**」にのみ必要です。  
バックアップ対象ノード数またはバックアップ対象サーバのソケット数のライセンスが必要です。  
Arcserve UDP コンソールおよび 復旧ポイントサーバ (RPS : バックアップ保存先サーバ) に  
ライセンスは不要です。

## バックアップ対象



物理サーバ



仮想サーバ



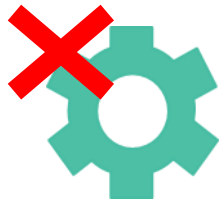
クライアントPC



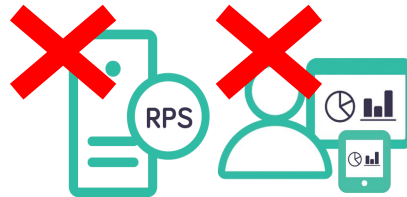
共有フォルダ



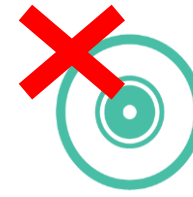
Microsoft 365 / IaaS



特定のオプション



管理コンポーネント

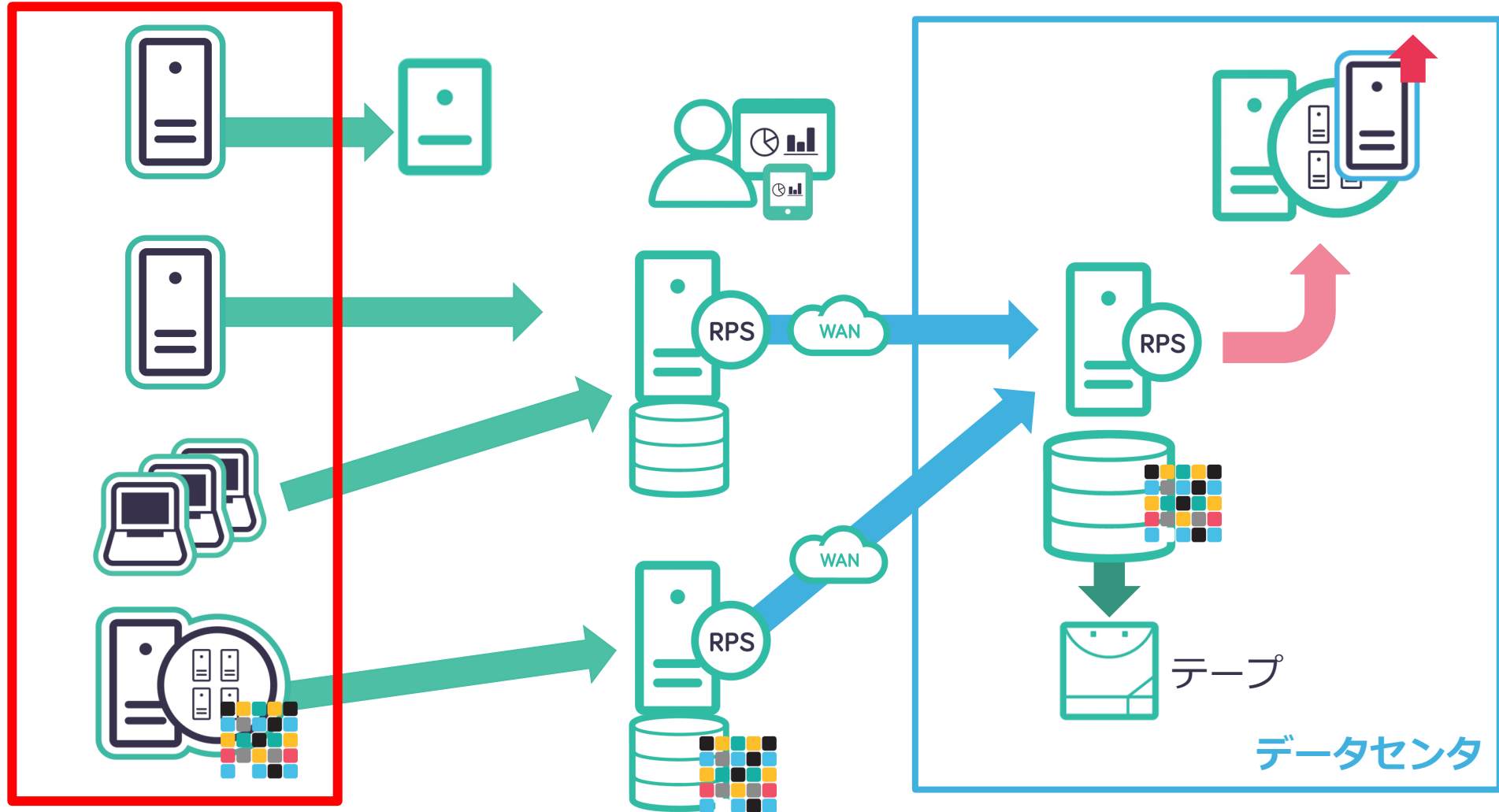


インストール

※ Arcserve Replication/High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ (物理/仮想ホスト)の両方にライセンスが必要です。

# 機能を追加してもライセンスは変わりません！

ライセンスの対象



## Editionの種類 と 含まれる機能

Edition	サーバ用			PC用
	Advanced/ for Nutanix	Premium	Premium Plus	Workstation
イメージ バックアップ / 共有フォルダ (CIFS/NFS ※1) のバックアップ	●	●	●	●※6
バックアップ データの重複排除や転送 (レプリケート)	●	●	●	●
統合管理	●	●	●	●
仮想マシンのエージェントレス バックアップ (vSphere/Hyper-V/AHV ※1)	●	●	●	
仮想スタンバイ/インスタントVM	●	●	●	※2
VSS ライタを利用したアプリケーションのオンライン バックアップ ※3	●	●	●	※4
アシュアード リカバリ/SLAレポート	●	●	●	
バックアップ データのテープ保管 注:Arcserve Backupのインストールが必要です	●	●	●	●
Oracle RMAN との連携バックアップ		●	●	
ハードウェアスナップショット対応 (NetApp / HPE 3PAR / Nimble など)		●	●	
役割ベースの管理		●	●	
アシュアード セキュリティ スキャン		●	●	
Arcserve Backup すべての機能 / 全エージェント/全オプションのライセンスが同梱 ※5		●	●	
Arcserve Replication ファイル サーバのデータ複製用のライセンスが同梱		●	●	
Arcserve Replication/High Availability のすべての機能のライセンスが同梱 ※5			●	

※1 : AHV 上の仮想マシンまたは Nutanix Files のバックアップを行うには Advanced Edition for Nutanix を購入してください。

※2 : Workstation Edition では vSphere/Hyper-V への仮想スタンバイのみ行えます。

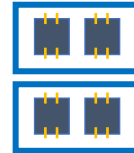
※3 : Microsoft 365 (Exchange Online, SharePoint Online, OneDrive および Teams) の保護には、別途専用のサブスクリプションを提供しています。

※4 : Microsoft SQL Server Express Editionのみオンライン バックアップをサポートします。

※5 : 「すべての機能」とは、日本語の動作要件に記載されている製品 (機能) が対象です。 ※6 : [共有フォルダのバックアップ](#)にはサーバ用ソケット ライセンスが必要です



# 課金方法の選択



サーバ台数 課金  
(per Server)

保護対象の物理サーバ台数分の  
ライセンスを購入する  
(物理サーバに適用)

Advanced

CPU ソケット数 課金  
(per Socket)

保護対象サーバのCPUソケット  
数分のライセンスを購入する  
(未使用ソケット分は不要)

Advanced/  
Premium/Premium Plus

データ容量 課金  
(per Terabyte)

保護対象サーバの総データ容  
量分のライセンスを購入する

Advanced/  
Premium/Premium Plus

注:

1. Workstation Edition はクライアントPC台数の課金
2. Exchange Online、SharePoint Online、OneDrive および Teams はユーザ数での課金

## 価格：サブスクリプションと永久（パーペチュアル）ライセンスから選択可能

サブスクリプション ライセンス (1年メンテナンス付き)			
エディション	サーバ単位 (Server)	ソケット単位 (Socket)	容量単位 (1TB)
Advanced Edition	¥52,000 (¥57,200)	¥52,000 (¥57,200)	¥148,000 (¥162,800)
Advanced Edition for Nutanix	—	¥52,000 (¥57,200)	¥148,000 (¥162,800)
Premium Edition	—	¥101,000 (¥111,100)	¥294,000 (¥323,400)
Premium Plus Edition	—	¥152,000 (¥167,200)	¥440,000 (¥484,000)
永久ライセンス (新規1年メンテナンス付き)			
エディション	サーバ単位 (Server)	ソケット単位 (Socket)	容量単位 (1TB)
Advanced Edition	¥151,000 (¥166,100)	¥151,000 (¥166,100)	¥902,000 (¥992,200)
Advanced Edition for Nutanix	—	¥151,000 (¥166,100)	—
Premium Edition	—	¥297,000 (¥326,700)	¥1,501,000 (¥1,651,100)
Premium Plus Edition	—	¥445,000 (¥489,500)	¥2,634,000 (¥2,897,400)

※金額は税抜きで、括弧の中は税込みです。

※メンテナンスはサブスクリプションの場合は3年、5年、永久ライセンスの場合は3年、4年、5年もございます。

※インストールメディアは別売です。

※アカデミック用などその他の記載のないライセンスは "<https://www.arcserve.com/jp/licensing-options>" を参照下さい。

## 価格：サブスクリプションと永久（パーペチュアル）ライセンスから選択可能

サブスクリプション ライセンス (1年メンテナンス付き)			
エディション	サーバ単位 (Server)	ソケット単位 (Socket)	容量単位 (1TB)
Advanced Edition	¥52,000 (¥57,200)	¥68,000 (¥74,800)	¥193,000 (¥212,300)
Advanced Edition for Nutanix	—	¥68,000 (¥74,800)	¥193,000 (¥212,300)
Premium Edition	—	¥132,000 (¥145,200)	¥383,000 (¥421,300)
Premium Plus Edition	—	¥198,000 (¥217,800)	¥572,000 (¥629,200)
永久ライセンス (新規1年メンテナンス付き)			
エディション	サーバ単位 (Server)	ソケット単位 (Socket)	容量単位 (1TB)
Advanced Edition	¥151,000 (¥166,100)	¥198,000 (¥217,800)	¥1,173,000 (¥1,290,300)
Advanced Edition for Nutanix	—	¥198,000 (¥217,800)	—
Premium Edition	—	¥387,000 (¥425,700)	¥1,952,000 (¥2,147,200)
Premium Plus Edition	—	¥580,000 (¥638,000)	¥3,425,000 (¥3,767,500)

※金額は税抜きで、括弧の中は税込みです。

※メンテナンスはサブスクリプションの場合は3年、5年、永久ライセンスの場合は3年、4年、5年もございます。

※インストールメディアは別売です。

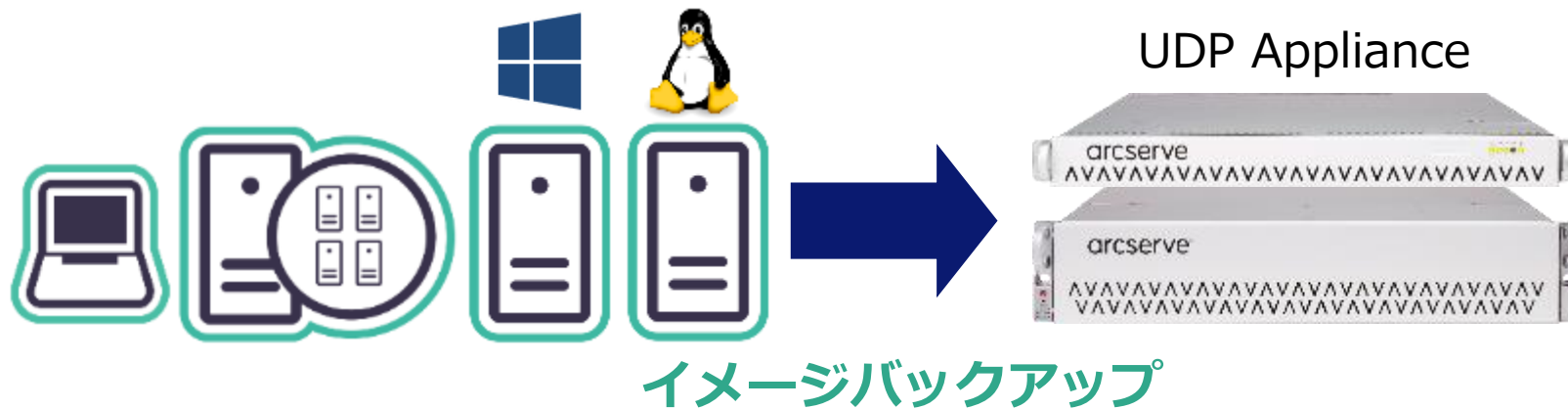
※アカデミック用などその他の記載のないライセンスは "<https://www.arcserve.com/jp/licensing-options>" を参照下さい。



# Arcserve UDP Appliance

## バックアップ専用アプライアンスサーバ

Arcserve UDP をプリインストールしたバックアップ専用アプライアンス  
内蔵ディスクにバックアップできる限りライセンスが使い放題  
中規模・大規模環境のバックアップをより簡単にシンプルに実現





# アプライアンスで運用コストを削減

サイジング不要で設置も簡単、大容量ストレージへのバックアップで容量不足の心配無し！

バックアップ  
ソフトウェア



バックアップ用  
ハードウェア



5年間  
メンテナンス付

Arcserve UDP プリインストール  
ライセンスフリー

ハードウェアサイジングが不要

2年目以降の更新費用不要



1U モデル	価格(税込)
9200 v2 (RAID-5: 12TB)	6,490,000 円
9200-6 v2 (RAID-6: 8TB)	5,390,000 円
9220 v2 (RAID-5: 24TB)	9,790,000 円
9220-6 v2 (RAID-6: 16TB)	8,690,000 円

2U モデル	価格(税込)
9400 v2 (RAID-6: 40TB)	14,190,000 円
9420 v2 (RAID-6: 80TB)	19,690,000 円

## サポート対応

- ✓ **Arcserve テクニカルサポート**にて窓口対応。  
Arcserveでワンストップサービスを提供
- ✓ ハードウェア故障は**オンサイト**（現地訪問）対応が可能  
部品交換が必要な場合、現地訪問は問題特定から4時間駆けつけ目標（※1）
- ✓ メンテナンス期間内であれば、Arcserve UDPの**無償アップグレード**が可能  
（アップグレード作業はお客様にて実施いただきます）

※1 サービス拠点(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡)より30km圏内での目標となります。



※ 価格の詳細は” <https://www.arcserve.com/jp/licensing-options>”を参照下さい。

# Arcserve 無償ハンズオン セミナー & Web (動画) セミナー

## Arcserve Backup

1. 入門編
2. システム復旧編

## Arcserve UDP

1. 前編(Agent)
2. 後編(Server)
3. Linux Agent 編

## Arcserve Replication/ High Availability

1. 前編 (Replication)
2. 後編 (HA)

お申し込みは

Arcserve セミナー

検索



まで。



# arcserve®

**arcserve Japan合同会社**

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105  
神保町三井ビルディング

**購入前のお問い合わせ:**

**Tel: 0120-410-116** (営業時間: 平日 9:00~17:30)

**E-mail: [JapanDirect@arcserve.com](mailto:JapanDirect@arcserve.com)**

**Webフォーム: [お問い合わせフォーム](#)**

[arcserve.jp](https://arcserve.jp)   

This document could include technical inaccuracies or typographical errors. Changes are periodically made to the information herein. These changes may be incorporated in new editions of this document. Arcserve may make improvements in or changes to the content described in this document at any time.

© 2024 Arcserve. All rights reserved. All Arcserve marks referenced in this presentation are trademarks or registered trademarks of Arcserve in the United States. All third party trademarks are the property of their respective owners.